SAKAImed

車椅子式入浴装置

ライラック

LA−510R/L

取 扱 説 明 書

●このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

●「取扱説明書」は
・１部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。
・１部を保存用として、大切に保管してください。

ご使用になる前に …… 2
- 安全上のご注意 …… 2
- 各部の名称 …… 9
- 組み合わせ …… 14
- 本製品による入浴ができない方 …… 14
- 始業点検について …… 15
- 入浴剤、薬液の使用について …… 17

操作方法 …… 18
- 電源 …… 18
- 湯温管理システム …… 20
- 貯湯 …… 20
  - ・自動給湯する …… 20
  - ・タンク内の湯温調節 …… 23
- ドアの開閉 …… 25
- 入浴する …… 28
  - ・入浴準備 …… 28
  - ・お湯はり …… 29
  - ・お湯抜き …… 30
  - ・送湯の停止 …… 30
  - ・入浴中に水位を変更する …… 31
- 浴槽湯温表示 …… 32
- 入浴時間表示 …… 32
- バブラー …… 32
- 差し湯 …… 33
- シャワー …… 34
- 排水 …… 36
- 塩素殺菌 …… 37
  - ・浴槽殺菌 …… 37
  - ・浴槽水殺菌 …… 39
  - ・薬液補充 …… 40
- 非常時の操作 …… 43
  - ・入浴を途中で止めるとき …… 43
  - ・急速排水する …… 44
  - ・ドアを手動で開放する …… 45
- 入浴終了後 …… 46

日常のお手入れ …… 47
- 清 掃 …… 47
- メンテナンス …… 48
  - ・グリスアップ …… 48
  - ・作動油 …… 48

このようなときは …… 49

機器について …… 53
- 保守・点検について …… 53
- 保証とアフターサービス …… 54
- 仕 様 …… 56

01-190③P5

用 途

本製品は、介助を必要とする入浴者を車椅子に座らせた状態で、快適かつ容易に入浴させることのできる入浴装置です。

特 長

●業界一のコンパクト化*1

貯湯タンクを浴槽内に内蔵することで、コンパクト化を実現し、ゆったり入れて実使用湯量約 320ℓの業界一の省湯量を実現。

●スイッチ操作でラクラク温度設定

電子制御ミキシングの採用により、安定した給湯が可能になりました。給湯温度の設定はスイッチ操作で簡単設定。

●塩素殺菌装置内蔵の循環方式

貯湯タンクと浴槽内で湯の出し入れを行い、入浴者毎に約 40 ℓの湯を自動的に入れ替えることで、清潔なお湯で入浴できる新しいシステムを実現しました。また、貯湯タンクに塩素殺菌装置を内蔵しておりますので、衛生的な入浴が可能です。

●トップクラスの安全性*1

高温/低温時の大型デジタル点滅表示、給湯、送湯の自動停止等の温度に関する安全性や扉が閉まる際に一時停止をする挟み込みに対する安全性、更に対面入浴方式により入浴者との対話や状態確認等リラックスした安全な入浴が行えます。

●安心・安全の対面進入方式

介助者が入浴者を常に確認しながら、安全に浴槽内に進入できる対面方式を採用しています。

●介助者の方への優しさも配慮

介助者の動線に沿って操作系を浴槽の片側にレイアウト。また浴槽の縁は介助しやすい高さ(床面から930㎜)と形状にしました。

*1平成 22 年 6 月現在当社調べ

本書に記載されている会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

ご使用になる前に

安全上のご注意

本製品を安全に正しくご使用していただくために、各注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。

表示について

危険や損害の程度を以下に区分し、表示しています。

⚠ 危険	取り扱いを誤ると、**「死亡または重傷を負うことに至る」**ことを示しています。
⚠ 警告	取り扱いを誤ると、**「死亡または重傷を負う可能性が想定される」**ことを示しています。
⚠ 注意	取り扱いを誤ると、**「傷害または物的損害の発生が想定される」**ことを示しています。

絵表示の意味

⃠ 禁止	行為を禁止することを示した表示です。
❗ 強制	必ず実行していただくことを示した表示です。

ご使用になる前に／安全上のご注意

電源・給湯水圧

⚠警告

電源の接続、及び修理は行わないこと

正しく接続しないと故障や事故の原因になります。

給湯水の接続、及び修理は行わないこと

正しく接続しないと水もれ等の故障や事故の原因になります。

給湯水圧は、適正圧力及び適正圧力比の範囲内であること

湯・水の適正使用範囲は 150～200kPa（約 1.5～2.0kg/㎠）、圧力比は最大 2：1 です。

- 適正範囲を外れると給湯やシャワーの湯温が変動し、やけどをする恐れがあります。
- 配管の破損や水漏れが発生する恐れがあります。

⚠注意

使用電圧は三相 200Ｖ±5%の範囲内で使用する

使用電圧が指定範囲外の場合、機器の故障及び誤作動の原因となります。

入浴剤

⚠注意

イオウ成分の入った入浴剤は、使用しない

使用になると、浴槽の金属部が腐食等を起こしたり、浴槽表面の光沢を失ったりする恐れがあります。

粉末状の入浴剤は使用しない

使用になると、溶け残ったものが配管内に付着して故障の原因になる恐れがありますので、入浴剤は液状のものを使用してください。

どうしても粉末状の入浴剤を使用したい場合は、別容器でよく溶かしてから使用してください。ただし、粉末状の入浴剤を使用したことによる故障については、保証期間内の製品でも保証対象となりませんのでご注意ください。

着色剤が入った入浴剤を使用する際は注意する

色や、においが付くことがあります。

ご使用になる前に／安全上のご注意

入浴

⚠警告

車椅子に入浴者を乗せたら、２本の安全ベルトと手すりを使用する

- ベルトをしないと入浴者が動いて車椅子から落下したり、入浴中に浮力により腰の位置がずれて、水没する恐れがあります。
- 手すりを使用しないと、握っていない手が浴槽との間に挟まれる恐れがあります。また上肢が車椅子の外側に出ていると浴槽進入時に当ってけがをする恐れがあります。

車椅子のリクライニング操作は、ゆっくり行う

リクライニングを起こすときに勢いよく持ち上げると、車椅子後方が浮き上がり、前に転倒する恐れがあります。

洗髪・洗身作業などでリクライニングを倒して使用するときは、車椅子の転倒に注意

入浴者の頭部に力をかけたり足を持ち上げたりすると、バランスを崩し転倒する恐れがあります。

入浴用車椅子上での移乗・洗髪・洗身作業時は転倒や落下に注意

狭い入浴用車椅子上での移乗・洗髪・洗身作業は入浴者の転倒や落下の恐れがあります。体位変換作業は、介助者の方向へ抱き寄せるようにして、入浴者の落下を介助者が体で防止しながら十分注意して作業を行い、洗身時はベルトを使用してください。

ドアを開閉するときは周囲を確認し、挟み込みに注意

ドアの動作範囲内に人や障害物があると、事故の原因となります。また、足先や手先が挟まれると、けがをする恐れがあります。

車椅子を進入させるときは、入浴者の足元に注意

入浴者の足がフットレストからおちていると浴槽進入時に浴槽に足をぶつけたり、底面シールに挟み込まれたりしてけがをする恐れがあります。

送湯中や入浴中の入浴者の状態に注意

水没等がないように、常に看視してください。

非常時のドアフックを解除する前に、必ず浴槽内の湯を完全に排水する

浴槽内に湯があると水圧でドアが勢いよく開いたり、多量の湯が一度に放出され危険です。また、停電や装置の故障時以外は、危険ですので操作しないでください。

ご使用になる前に／安全上のご注意

入浴

⚠注意

車椅子の各操作は、ゆっくり行う

入浴者に不安感を与えないように勢いをつけず、ゆっくり行ってください。

浴槽進入時にはフットレストを必ず持ち上げる

フットレストを持ち上げないまま浴槽に進入させるとハンドルが浴槽に当たり事故につながります。必ずフットレストを浴槽内進退用ハンドルで持ち上げてから浴槽へ進入させてください。

ドアに無理な力をかけない

無理に開閉したり、開いたドアにぶらさがったりすると、破損する恐れがあります。

失禁等で急速排水を使用する場合、排泄物を取り除いてから排水する

排泄物を取らないと排水管が詰まり、排水があふれる恐れがあります。また、衛生管理上や配管の目詰まり防止のため、湯はタンクに戻さず排水してください。

急速排水するときは、急激な湯の流出に注意

- 浴槽内の湯を速く排水させるため、入浴者の気分が悪くなる場合がありますので、入浴者の状態に注意してください。
- 浴槽底面から多量の湯が一度に放出されますので、介助者の足元に注意してください。

送湯

⚠警告

お湯はり前に、必ず貯湯タンク内の温度を表示と手で確認

お湯はりの前には必ずタンク内の湯温を、表示と手で確認してください。確認しないでお湯はりスイッチを押しますと、温度センサー等が故障した場合に高温の湯が止まらないで浴槽に送湯され、入浴者にやけどを負わせる恐れがあります。**特に、午前又は午後の最初の入浴者の場合は、必ずタンクの蓋を開けて手で湯温を確認してください。**

皮膚の弱い方等の入浴には給湯温度に十分注意する

湯の温度が高いとやけどをする恐れがあります。

⚠注意

お湯はりをするときは、貯湯タンク蓋を閉じる

送湯中にタンク内に物が落下すると、配管内に吸い込まれ故障の原因になります。

ご使用になる前に／安全上のご注意

差し湯

⚠警告

差し湯をするときは、給湯温度表示と手で湯温を確認

温度センサー等が故障した場合、高温の湯が浴槽に流れやけどをする恐れがあります。また湯の出し始めや温度設定をした後は温度が安定していない場合があるので、しばらく湯を流して、温度を確認してください。

高温で差し湯を使用した後は、必ず温度設定を適温に戻す

設定温度は記憶されますので、そのままにしますと次に差し湯を使用するときにやけどをする恐れがあります。差し湯の温度設定を適温に戻して、しばらく湯を流してください。

シャワー

⚠警告

入浴者にシャワーをかけたままの状態で離れない

介助者が離れている間に温度が急変した場合、やけどをする恐れがあります。

シャワーを入浴者にかける前や使用中にも手で湯温を確認

- 給湯・給水の水圧の急変により、シャワーの温度が急に変わることがあります。
- 温度調節後、設定温度になるまで湯を出し続けてください。

ハンドシャワーで高温の湯を使用した後は、温度調節ノブを適温に戻す

温度調節ノブを高温側のままにすると、次に使用するときにやけどをする恐れがあります。
低温側に回して、適温になるまで湯を流してください。

⚠注意

流量調節ノブはゆっくり操作する

湯量調節ノブを止まる側に急に回すと、水圧が高くなり配管から水漏れを起こす原因になります。

シャワー使用後は、シャワーの開閉ボタンを「開く」の状態にしたまま、湯量調節ノブでシャワーを止める

開閉ボタンにて長時間止水させた場合、水漏れする恐れがあり、シャワーヘッドの寿命が短くなります。

ご使用になる前に／安全上のご注意

塩素殺菌

⚠危険

次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いない

人体に有害な塩素ガス等の発生の恐れがあります。万一塩素ガスを吸込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠警告

誤って薬液を飲んだり、目に入った場合は、応急処置後、医師に相談する

- 飲み込んだときは吐かせずに多量の水や牛乳を飲ませ、「次亜塩素酸ナトリウム」を飲んだと言って医師に相談してください。
- 万一目に入ったときはすぐにきれいな水で 15 分以上洗い流し、医師の診察を受けてください。

⚠注意

薬液が誤って人体または衣服についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流す

薬液が皮膚、または衣類についたときはぬめり感がなくなるまで洗い流してください。薬液が衣類につくと、強い漂白力があり脱色しますので注意してください。

薬液を取り扱う際は十分に換気を行い、保護具（ゴム手袋）を着用する

使用中に目にしみたり、咳き込んだり、気分が悪くなったときは、すぐに使用をやめてその場から離れ、手洗い、洗眼、うがいなどをしてください。

周囲に薬液がこぼれた場合は水でよく洗い流す

床やフレーム等の変色や錆の原因となります。

当社指定外の薬液を使用しない

当社指定外の薬液を使用すると、浴槽の金属部や電気部品、ゴム部品等を腐食させる恐れがあります。当社指定以外の薬液のご使用により装置が故障した場合は、保証期間内の製品でも、保証対象となりませんのでご注意ください。

使用期限内の薬液を使用する

薬液は、経時変化により殺菌効果が弱くなります。容器に表示されている使用期限内でご使用ください。

薬液タンクへの補充薬液は濃度が 1.5%のものを使用する

濃度が異なる薬液の使用は、殺菌効果への影響や、機器の故障につながります。

補充の際、希釈した薬液は 1 回毎に使い切り、作り置きはしない

希釈倍率の混乱や誤用の原因となったり、品質変化の原因となります。

空になった容器は、よく洗って保管する

薬液が容器に残っていると、人体や衣服に触れる恐れがあります。

排出した薬液は、濃度を水で十分に薄めてから処理する

床等の変色や錆の原因となります。

使用後

⚠注意

操作スイッチに水をかけない

水がかかると電気系統の故障の原因になります。

使用後は、ドアシール及び底面シールを作動させない

車椅子を浴槽内に入れ長時間シールしたまま放置すると、シール性が低下して水漏れする恐れがあります。

シール部に挟まった毛髪やごみは取り除く

挟まったまま使用すると、水漏れの恐れがあります。

使用後は、貯湯タンク内の湯を排水する

水垢などがタンク内にこびりつき、汚れが落ちにくくなります。

使用後は、必ず自動給湯ランプの消灯を確認し、電源を切る

自動給湯ランプが点灯している状態で配電盤内の専用安全ブレーカーを切ると、貯湯タンク内への自動給湯が停止しません。自動給湯ランプが消灯していることを確認してから、電源を切ってください。

電源を切るときは、電源スイッチ、安全ブレーカーの順に切る

自動給湯の停止には数秒掛かりますので、電源切後は約 15 秒おいた後に、ブレーカーを切ってください。

使用後は、換気を行い室内の湿度を下げる

湿気による錆やかびなどの発生を抑えます。

その他

⚠注意

付属のシリコングリスを使用する

当社指定以外のグリスを使用すると、故障の原因になります。

心臓用ペースメーカーを使用している方を入浴させるときは、医師に相談する

本製品が、ペースメーカーに影響を与えることがあります。

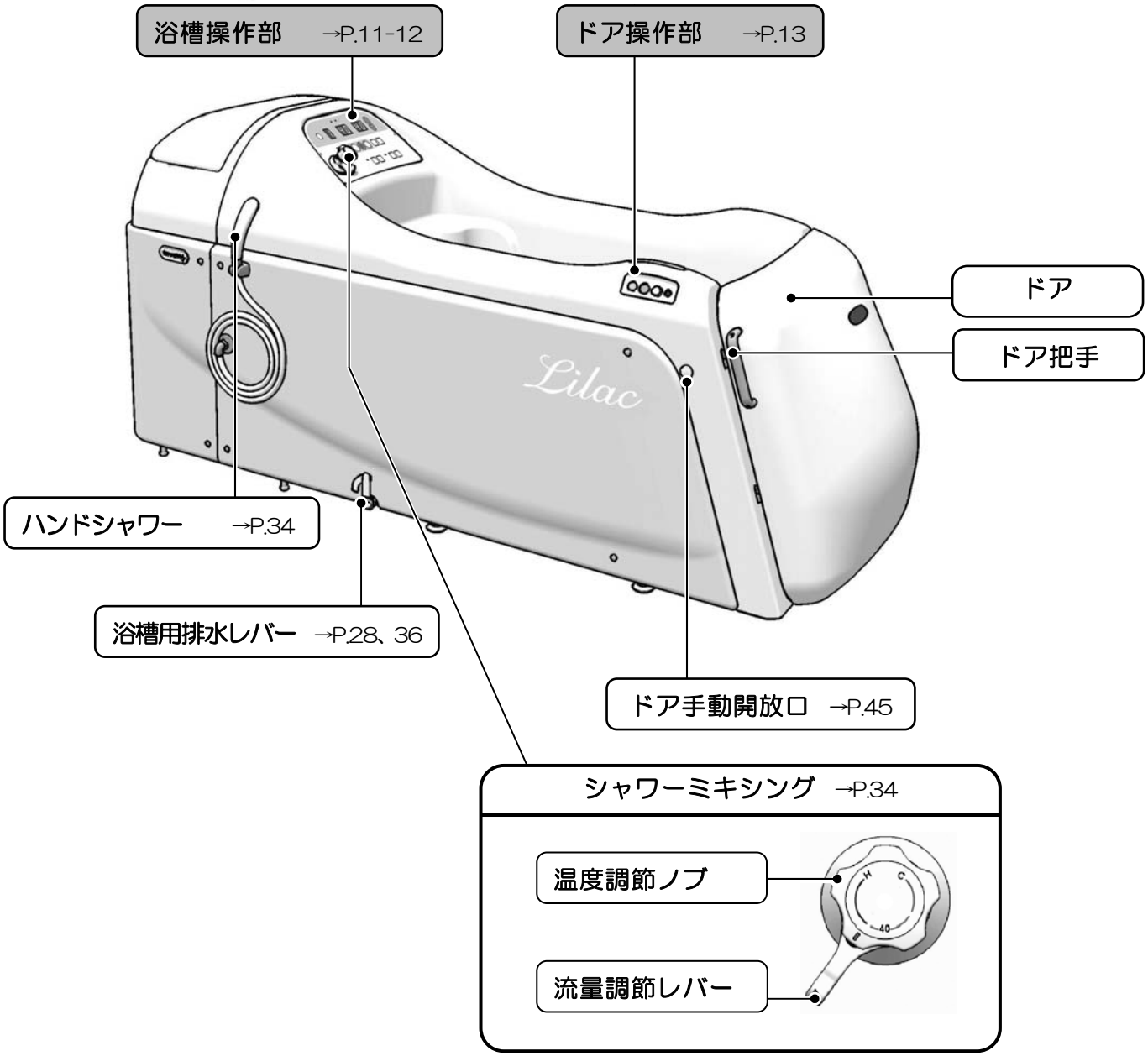
この製品は、一部に天然ゴムを使用しています

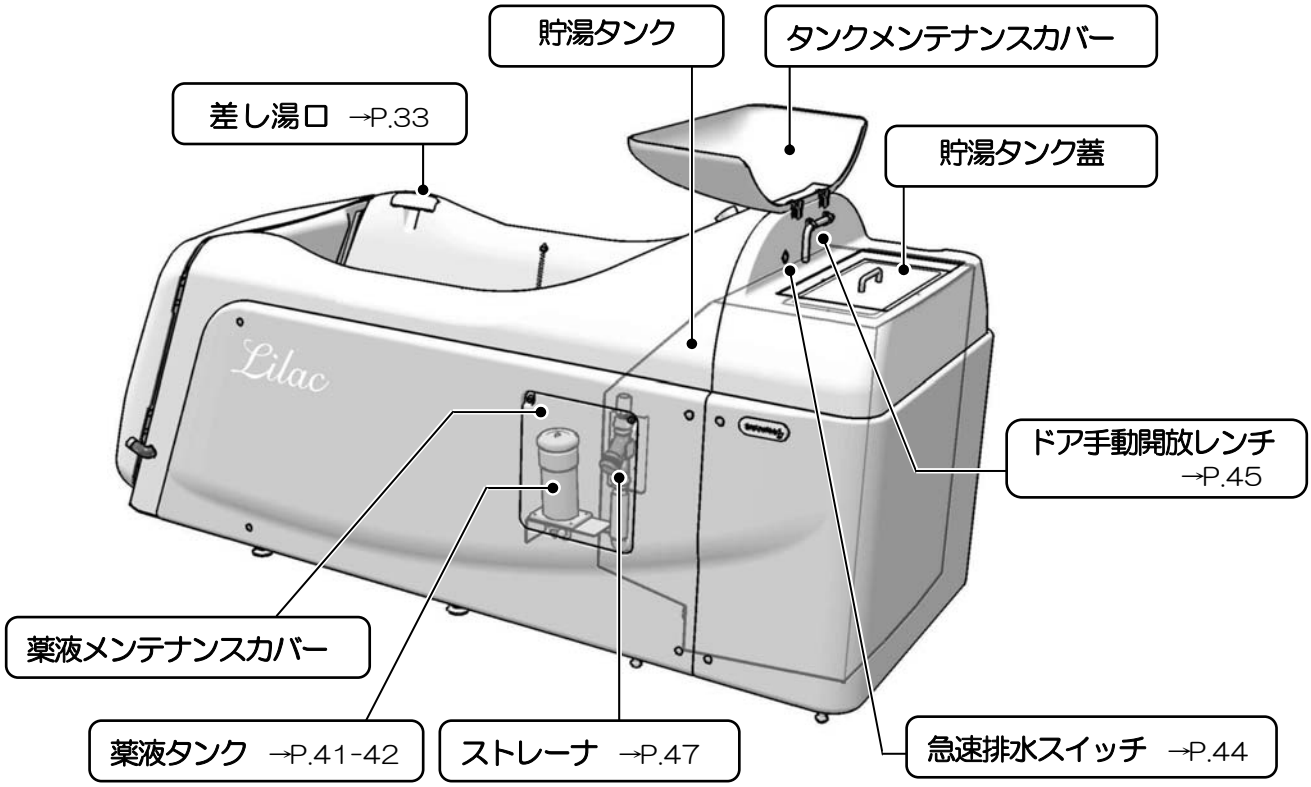
かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状をまれに起こすことがあります。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、医師に相談し、適切な措置を施してください。

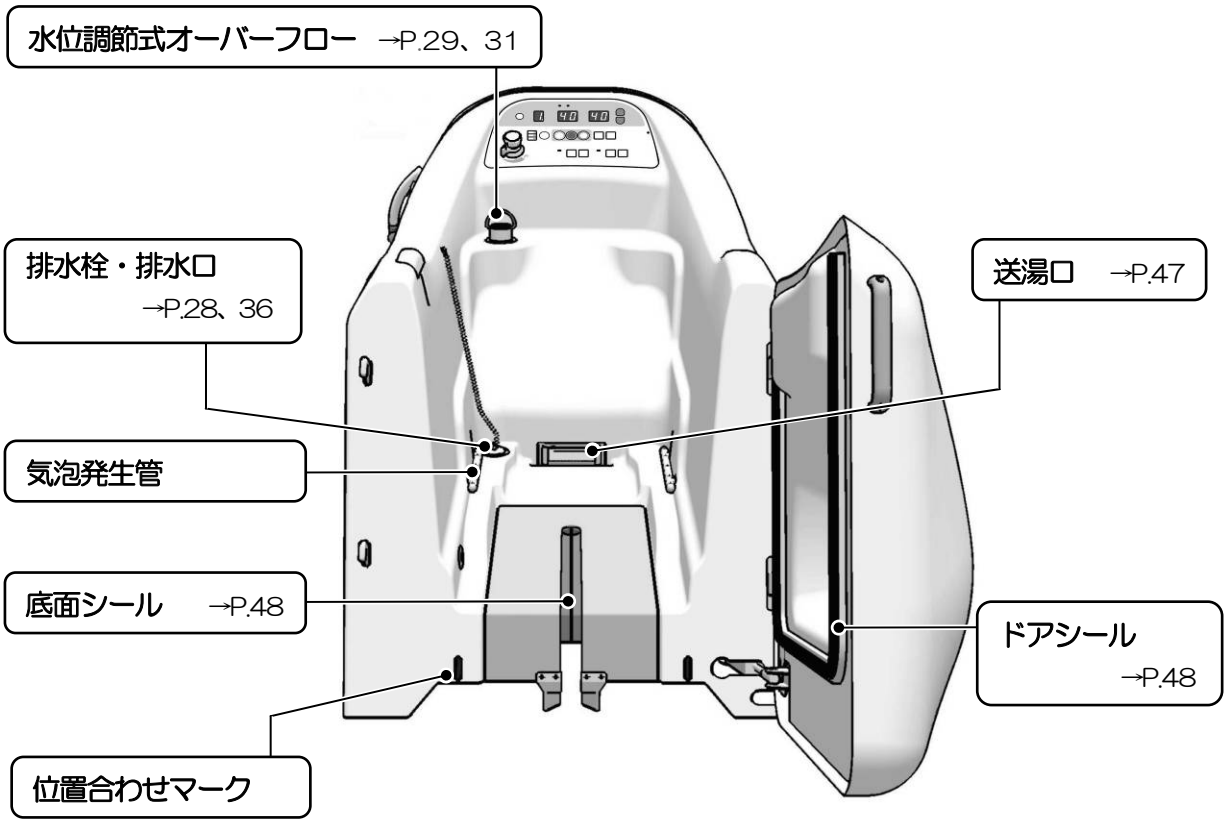
ご使用になる前に

各部の名称

浴槽：Rタイプ （L タイプはドア、ドア操作部、ハンドシャワー、排水レバー、オーバーフローが逆側となります）




貯湯タンク
タンクメンテナンスカバー
差し湯口 →P.33
貯湯タンク蓋
ドア手動開放レンチ
→P.45
薬液メンテナンスカバー
薬液タンク →P.41-42
ストレーナ →P.47
急速排水スイッチ →P.44


水位調節式オーバーフロー →P.29、31
排水栓・排水口
→P.28、36
送湯口 →P.47
気泡発生管
底面シール →P.48
ドアシール
→P.48
位置合わせマーク

給湯操作部

浴槽/タンク湯温表示 →P. 23-24、28

浴槽内温度、またはタンク内温度を表示します。
高温時、低温時…点滅

浴槽/タンク湯温ランプ →P. 29-30

湯温が、浴槽/タンクのどちらを指しているかを表示します。

入浴時間表示 →P. 32

入浴の経過時間を表示します。

電源スイッチ →P. 18-19

電源の切/入を行います。
（約 2 秒長押し）

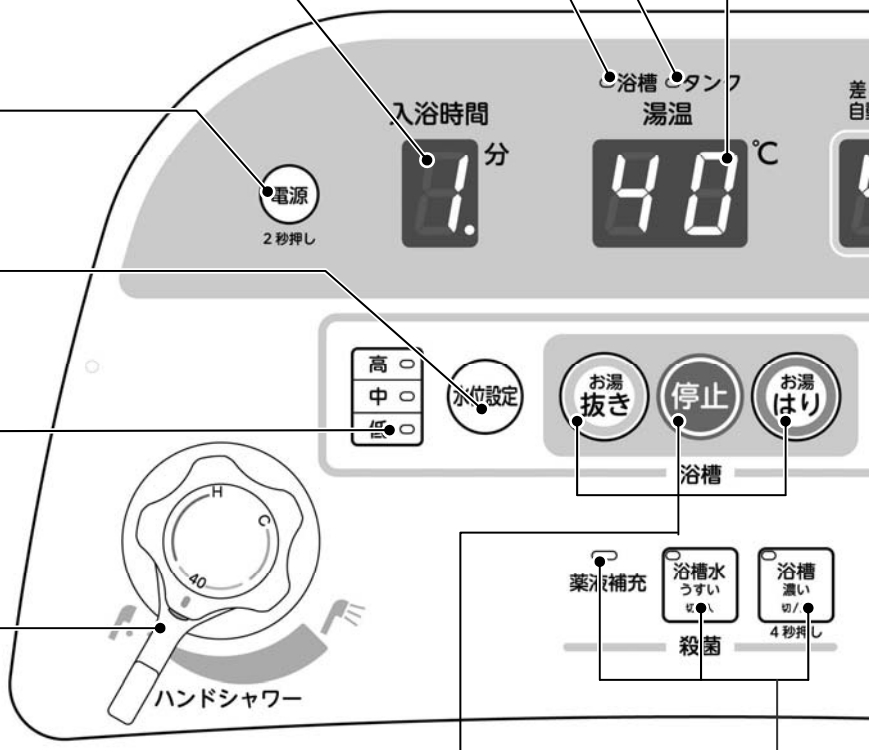
水位設定スイッチ →P. 29、31

押すごとに低→中→高と水位の設定をします。

水位ランプ →P. 29、31

設定した水位を表示します。

シャワーミキシング →P34



お湯抜きスイッチ →P. 30

入浴後、浴槽からタンクへ湯を戻します。

停止スイッチ →P. 30

お湯はり、お湯抜き中に送湯を停止します。

お湯はりスイッチ →P. 29

タンクから浴槽へ湯を流し入浴します。

薬液補充ランプ →P. 40

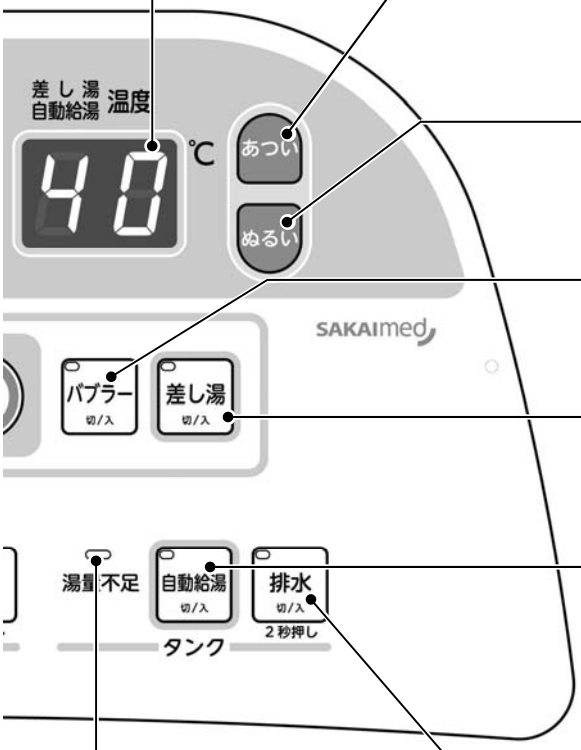
薬液の残りが少なくなると点灯します。

浴槽水殺菌スイッチ →P. 39

浴槽水殺菌（うすい）の切/入を行います。作動中は左上のランプが点灯します。

浴槽殺菌スイッチ →P. 37

浴槽殺菌（濃い）の切/入を行います。(約 4 秒長押し)　作動中は左上のランプが点灯します。



差し湯/自動給湯温度表示 →P. 21-24、33

差し湯およびタンクへの給湯温度を表示します。
高温時、低温時…点滅

あついスイッチ →P. 21-24、33

押すごとに給湯温度設定を１℃ずつ上げます。

ぬるいスイッチ →P. 21-24、33

押すごとに給湯温度設定を１℃ずつ下げます。

バブラースイッチ →P. 32

バブラー（気泡浴）の切／入を行います。
作動中は左上のランプが点灯します。

差し湯スイッチ →P. 33

差し湯の切／入を行います。
作動中は左上のランプが点灯します。

タンク自動給湯スイッチ →P. 20-24

自動給湯の切／入を行います。
自動給湯「入」･･･左上のランプが点灯

タンク排水スイッチ →P. 36

タンクの排水を行います。(約２秒長押し) 作動中は左上のランプが点灯します。

タンク湯量不足ランプ →P.20、21

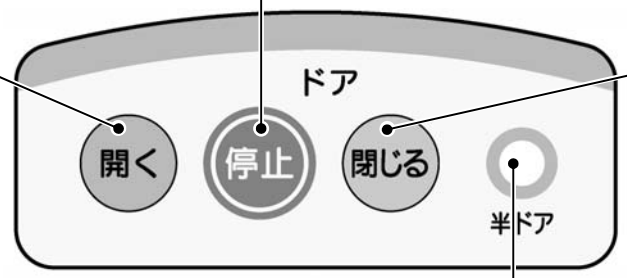
タンクの湯量不足を表示します。
湯量不足…点灯
自動給湯中…点滅
入浴可能…消灯

ドア操作部

開くスイッチ →P. 25
ドアを開きます。

停止スイッチ →P. 26
ドアの開閉動作を停止します。

閉じるスイッチ →P. 25-27
ドアを閉じます。



半ドアランプ →P. 26、28
ドアが開いていると点灯します。

ご使用になる前に

組み合わせ

浴槽の種類

浴槽（右扉）	LA-510R
浴槽（左扉）	LA-510L

周辺装置（別売り）

入浴用車椅子　・・・LA-500C

浴槽と入浴用車椅子を組み合わせて使用します。

入浴用車椅子の操作方法については、専用の取扱説明書をご覧ください。

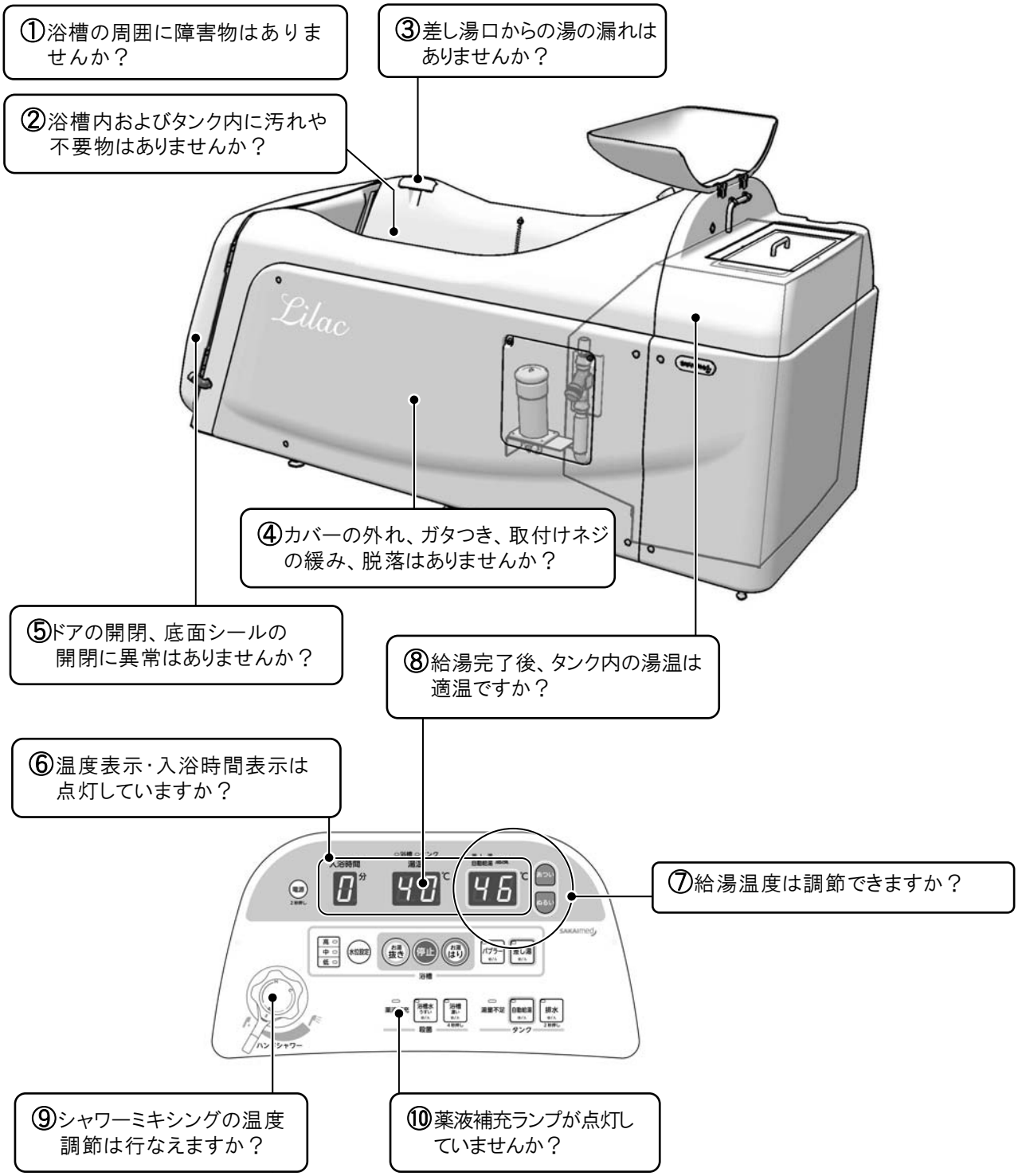
本製品による入浴ができない方

- 椅子に座った状態を独力で維持できない方、椅子の上で前方や左右に極端に寄りかかったり、片寄って座った状態となる方。
- 体重が 100 kg以上の方。
- 入浴前に入浴者の呼吸や脈拍、血圧、体温などに変化があった場合は、入浴を中止してください。

ご使用になる前に

始業点検について

ご使用前に**始業点検項目**にもとづき、始業点検を実施してください。



始業点検チェックリスト：ライラック　浴槽（LA-510）　　点検日　　年　　月　　日

	項目	点検内容	点検方法	ﾁｪｯｸ	備考
電源投入前	①	障害物の有無	目視	□ OK・□ NG	
	②	浴槽内及びタンク内の汚れ、または不要物	目視	□ OK・□ NG	
	③	差し湯口からの湯の漏れ	目視	□ OK・□ NG	
	④	カバーの外れ、ガタつき、取付けネジの緩み、脱落	目視	□ OK・□ NG	
電源投入後	⑤	ドアの開閉、底面シールの開閉	開閉がスムーズで異常がないか確認	□ OK・□ NG	
	⑥	温度表示･入浴時間計の点灯	目視	□ OK・□ NG	
	⑦	給湯温度調節	あついスイッチ、ぬるいスイッチを押し温度表示が変化することを確認	□ OK・□ NG	
	⑧	給湯完了後の湯温	手でタンク内の湯が適温であることを確認し、表示と比較	□ OK・□ NG	
	⑨	シャワーミキシングの温度調節	シャワーを出しながら温度調整ノブを回し高温低温の調節が可能か手で確認 **（確認後、40℃前後の適温に戻すこと）**	□ OK・□ NG	
	⑩	薬液の量	薬液補充ランプの消えていることを確認	□ OK・□ NG	

これ以外でも部品が破損しているなど、日頃お使いになられていたときとは違う異常を感じましたら、本製品を使用せずに、電源を切って最寄りの営業所にご連絡ください。尚、故障中は故障した機器を誤って使用しないように、周囲の方が分かるように表示（故障中の貼り紙等）をお貼りください。

ご使用になる前に

入浴剤、薬液の使用について

入浴剤について

入浴剤は液状のものを使用してください。
入浴剤を使用する場合は、入浴剤の使用上の注意をよく読んで、浴槽（FRP）や配管等に悪影響を及ぼすような成分(イオウ等)の入った入浴剤は使用しないでください。

⚠ **注意　・イオウ成分の入った入浴剤は、使用しない**

・粉末状の入浴剤は使用しない

ご使用になると、溶け残ったものが配管内に付着して故障の原因になる恐れがありますので、入浴剤は液状のものを使用してください。
どうしても粉末状の入浴剤を使用したい場合は、別容器でよく溶かしてから使用してください。**ただし、粉末状の入浴剤を使用したことによる故障については、保証期間内の製品でも保証対象となりませんのでご注意ください。**

・着色剤が入った入浴剤を使用する際は注意する

薬液について

本製品の塩素殺菌装置は、次亜塩素酸ナトリウム(1.5%溶液)専用です。他の薬液を使用したり、他の溶液と混ぜて使用しないでください。

推奨品：㈱オーヤラックス製「ピューラックス（濃度 6%）」
（付属の希釈ボトルで次亜塩素酸ナトリウム(濃度 6%)を 4 倍に希釈して使用）

取り扱いの注意に関しては、P.42 を参照ください。
消耗品の補充に関しては、P.55 を参照ください。

操作方法

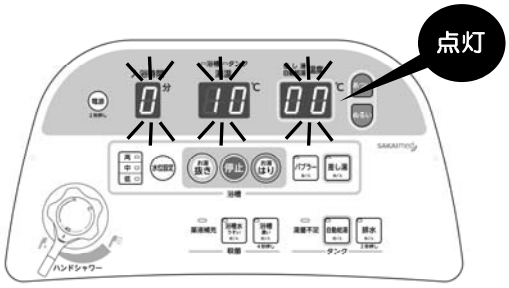
電源

電源を入れる

1. 配電盤内（施設側）にある専用の安全ブレーカーを ON にします。

2. 温度表示部が点滅し、その後給湯温度表示以外は、点灯に切り替わります。

・約 35 秒間セットアップを行います。
・配管内やタンク内に湯が残っている場合は、温度により、点灯・点滅の表示になります。

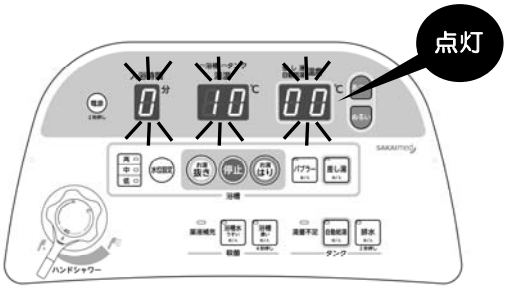


＜電源スイッチにて一時的に表示ランプ類を消灯させている場合＞

1. 電源スイッチを約 2 秒間長押しします。

2. 温度表示部が点滅し、その後給湯温度表示以外は、点灯に切り替わります。

・約 35 秒間セットアップを行います。
・配管内やタンク内に湯が残っている場合は、温度により、点灯・点滅の表示になります。



操作方法／電源

電源を切る

1. 自動給湯ランプが消灯していることを確認します。

ご注意

自動給湯ランプが点灯している状態で専用の安全ブレーカーを切ると、タンク内への自動給湯が停止しません。自動給湯ランプが消灯していることを確認してから、電源を切ってください。

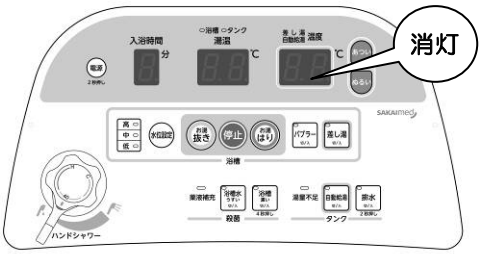
> ⚠ **注意　使用後は、必ず自動給湯ランプの消灯を確認し、電源を切る**

2. 電源スイッチを約２秒間長押しします。

参考

電源スイッチは、昼休み等で一時的に浴槽操作部の表示ランプ類を消灯させたい場合にも、ご使用ください。

3. 表示部の消灯を確認します。



4. 配電盤内にある専用の安全ブレーカーを OFF にします。

ご注意

自動給湯の停止には数秒掛かりますので、電源切後は約 15 秒おいた後に、ブレーカーを切ってください。

> ⚠ **注意　使用後は、電源スイッチで電源を切ってから、配電盤内にある専用の安全ブレーカーを切る**

操作方法

湯温管理システム

本製品は、入浴に適さない温度での湯の使用を制限しています。各操作で使用できる湯の温度範囲は下記の通りです。
タンク内の湯温が高温のときは、湯を浴槽へ送らないやけど防止機能を備えています。

	～35℃	36℃・・・・44℃	45℃	46℃	47℃	48℃	50℃	51℃～
自動給湯	不可 （給湯温度　点滅）	可能				不可 （給湯温度　点滅）		
お湯はり	不可 （タンク湯温表示　点滅）	可能		不可 （タンク湯温表示　点滅）				
差し湯	水が出ます （設定表示 c0）	可能		（差し湯温度　点滅）				不可
ハンドシャワー	可能		（←安全ボタン）					
浴槽殺菌	可能			不可 （タンク湯温表示　点滅）				

貯湯（貯湯タンクへの給湯）

自動給湯する

自動給湯は、タンク内への湯の補給/停止を自動的に行います。
また入浴を繰り返す間、必要な湯をタンクへ補充します。

1. 自動給湯スイッチを押します。

・自動給湯ランプが点灯し、タンク内へ給湯が開始されます。
・給湯中は、湯量不足ランプが点滅して給湯中であることをお知らせします。

参考

・電源を入れて最初の給湯は、本製品に供給される湯温を安定させるため、開始から５分間は適温範囲外の水でも給湯を停止しませんが、低温の水は自動的に排水されてタンクには貯まりません。（排水を停止する場合は、排水スイッチを長押しして止めてください。）

・前回の残り湯がある場合、電源入時に適温以外の場合は自動で排水が始まります。自動で排水中は、排水ランプが点滅し、給湯操作は行えません。排水を停止する場合は、排水スイッチを長押し（2 秒間）してください。
排水が停止（すべてを排水しません）し、排水ランプが消灯すれば、給湯操作を行えます。

操作方法／貯湯

2. 差し湯 自動給湯 温度表示を見ながら、あつい　ぬるい スイッチを押し、お好みの設定温度に設定します。

・設定できる範囲は 36～47℃です。

35℃以下	36℃・・・・・・・・・・・・・47℃	48℃
給湯不可 （温度表示　点滅）	給湯可能	給湯不可 （温度表示　点滅）

参考

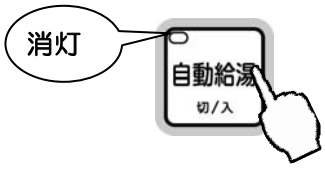
・給湯温度表示は、あつい　ぬるいスイッチを操作しているときは、設定温度を表示します。設定終了後、約２秒で実際の湯温の温度表示に自動で切り替わります。給湯が開始されていない場合は、配管内に溜まっている水の温度を表示します。

・タンク内に所定量貯まると、給湯は自動停止し湯量不足ランプが消灯します。

参考

湯量不足ランプが点灯していると お湯はり ができません。

3. 自動給湯をやめるときは、もう一度自動給湯 スイッチを押します。



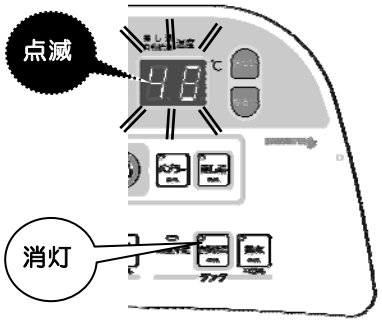
参考

続いて入浴しない場合など、自動給湯機能が必要でないときには給湯完了後に停止しておくと、使う湯を節約できます。

操作方法／貯湯

給湯が停止した場合

高温の湯（48℃以上）または低温の湯（35℃以下）が給湯された場合、湯温管理システムが働き、自動給湯が停止します。下記の操作で、給湯を再開してください。



・温度表示部の数字が点滅します。
・自動給湯ランプが消灯します。

1. あつい　ぬるいスイッチを押し、温度を再設定します。

・温度設定を 47℃（36℃）付近にすると、給湯水圧の変動により湯温が上がり(下がり)過ぎることがあります。温度を再設定してください。

2. もう一度自動給湯スイッチを押します。

・自動給湯ランプが点灯し、給湯が再開されます。

参考

・給湯の温度を再設定した場合でも、浴槽へ接続している配管内の急激な水圧の変動等により高温（48℃以上）低温（35℃以下）が約 20 秒以上続いた場合は、給湯が停止します。

・給湯再開の操作後も配管内に高温/低温の湯が残っている場合は、再度給湯が停止することがあります。

ご注意

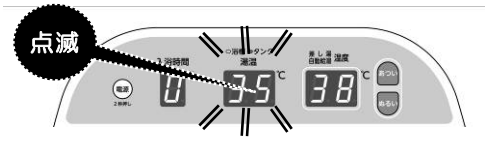
自動給湯スイッチを押したとき、適温範囲外の湯でも 20 秒間はタンク内へ給湯します。高温の場合はやけどの恐れがありますので、タンク内上部から吐出している湯には触れないよう、注意してください。

操作方法

タンク内の湯温調節

熱すぎる（ぬるすぎる）湯を貯めてしまった場合や、給湯完了後に時間が経ち、湯が冷めてしまった場合には、低温（高温）の水を追加することでタンクの湯の温度を調節してください。

・貯まった湯の温度が範囲外のときは、湯温表示部の数字が点滅してお知らせします。



◆タンク満水前

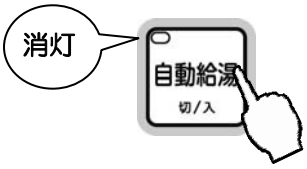
1. 温度設定の[あつい]　[ぬるい]スイッチを押し、給湯温度を上下させます。

・給湯中の湯が熱く（ぬるく）なりタンク湯温が変化します。

◆タンク満水後

[湯量不足]ランプが消灯している場合、タンクが満水でそれ以上追加できません。タンク内から適量の湯を捨て、追加給湯します。

1. [自動給湯]を停止します。



2. タンクの湯を[排水]します。
排水量はタンク蓋を開け水位を見て確認します。

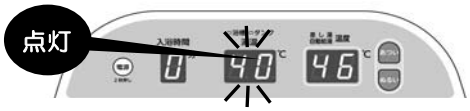
・排水方法は、P.36「タンク内の湯を排水する」を参照ください。

操作方法

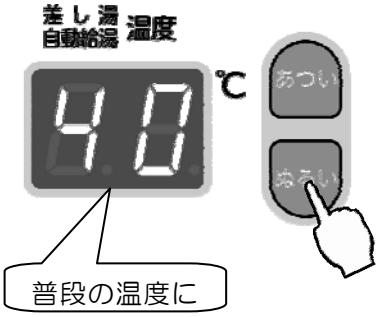
3. 給湯温度を再設定して、自動給湯スイッチをもう一度押し、熱い(ぬるい)湯を追加します。

・熱い（ぬるい）湯が給湯されタンク湯温が変化します。

・貯まった湯の温度が範囲内になると、湯温表示の点滅が止まります。



4. 設定温度を極端に熱く(ぬるく)した場合は、元に戻します。



操作方法

ドアの開閉

ドアを開ける

1. ドア操作部の開くスイッチを押します。

・ドアが自動的に開き、約 90° の位置で止まります。

> ⚠ **警告　ドアを開閉するときは、周囲を確認し入浴者の手足に注意**

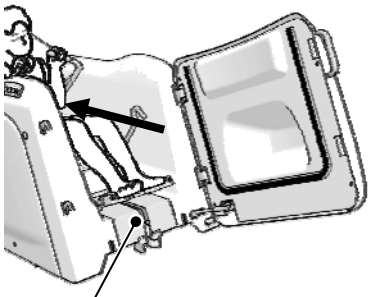
参考

・電源（配電盤内の安全ブレーカー）を ON にした後のセットアップの間は、機器の立ち上げ時間のためドアは開きません。

・浴槽内に湯水がある場合は、開くスイッチを押してもドアは開きません。排水またはタンクへ湯を戻して、浴槽内が空になったことを確認してからドアを開けてください。

ドアを閉じる

1. 車椅子を浴槽内に進入させます。



・自動で底面シールが閉じます。

> ⚠ **警告　車椅子を進入させるときは、入浴者の足元に注意**

> ⚠ **注意　車椅子を進入させるときは、フットレストを持ち上げる**

2. 閉じるスイッチを押します。

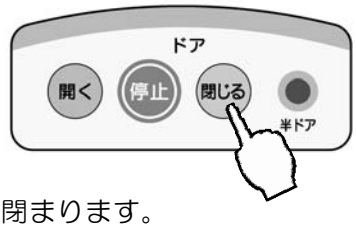
> ⚠ **警告　ドアを閉じるときは挟み込みに注意**

操作方法

3. ドアの把手を持って軽く閉じ側へ引きます。

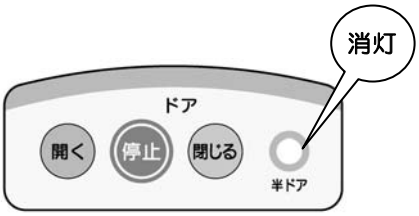
・ドアはゆっくりと閉まり出し、挟み込み防止のため、中間位置で自動停止します。

4. 入浴者の足元の安全を確認してから、再度閉じるスイッチを押します。



・ドアはゆっくりと最後まで閉まります。

・ドアロック及びドアシールが作動し、半ドアランプが消灯します。



ドアの開閉を停止する

1. 途中でドアの開閉動作を停止するときは、停止スイッチを押します。

> ⚠ **注意　ドアに無理な力をかけない**

・開閉を再開するときは、開くまたは閉じるスイッチを押します。

操作方法／ドアの開閉

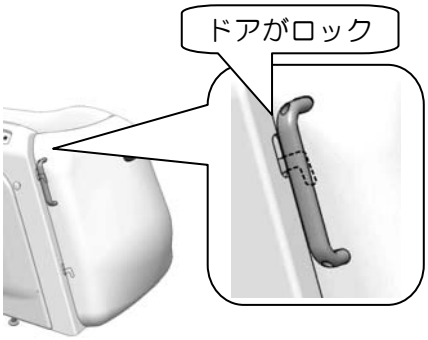
車椅子を入れずにドアを閉じる

１日の入浴作業の終了時は、入浴用車椅子を入れずにドアを閉じてください。浴槽の中へ人が入ったり、シールを傷付けたりすることを防止します。
また一時的にドアだけを閉じておきたい場合にも、下記の操作を行ってください。

1. 閉じるスイッチを押し続けながら、ドアの把手を持って軽く閉じ側へ引きます。

・スイッチを押し続けている間、ドアはゆっくりと自動で閉まります。

全て閉じると、自動でロックされます。



・ドアシール・底面シールは作動しません。
・半ドアランプは消灯しません。

⚠ 注意　使用後は、ドアシール及び底面シールを作動させない

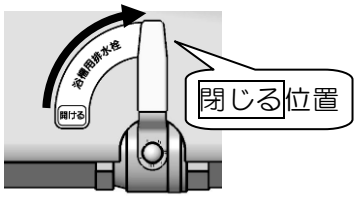
操作方法

入浴する

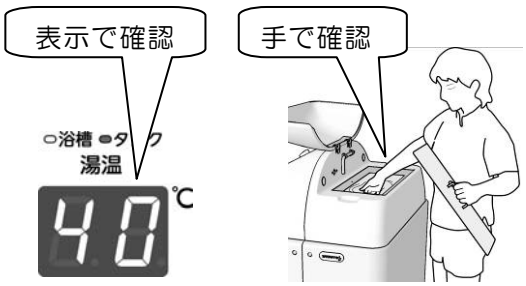
入浴準備

1. 浴槽底面の排水口に排水栓を入れます。

2. 浴槽側面下部にある浴槽用排水レバーを閉じる位置にします。



3. タンク内の湯の温度を、表示と手で確認します。



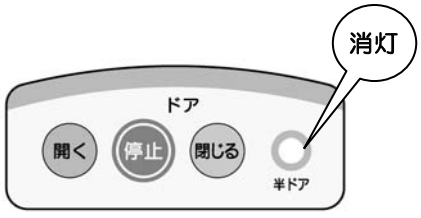
・お湯はりすることができるタンクの湯温は 36～45℃です。

35℃以下	36℃・・・・・・・・・・・・・・45℃	46℃
お湯はり不可 （温度表示　点滅）	お湯はり可能	お湯はり不可 （温度表示　点滅）

⚠ 警告　・お湯はり前に、必ずタンク内の温度を表示と手で確認
・皮膚の弱い方等の入浴には給湯温度に十分注意する

⚠ 注意　お湯はりをするときは、タンク蓋を閉じる

4. 入浴用車椅子を浴槽に入れてドアを閉じます。半ドアランプが消灯していることを確認します。

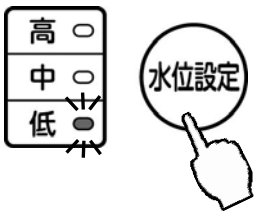


・半ドアランプが点灯している間は、ドアや底面のシールが閉じていないため、お湯はりされません。

操作方法／入浴する

お湯はり

1. 水位設定スイッチを押して、「高」「中」「低」のいずれかに水位を選択します。

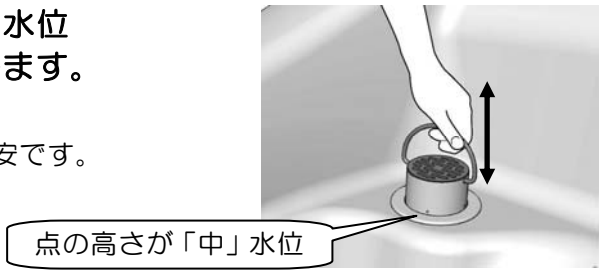


参考

毎回の出浴時、お湯抜きスイッチを押すと、設定は安全のため、自動的に『低』に戻ります。

2. 入浴者の身長及び入浴姿勢に合わせ、水位調節式オーバーフローの高さを調節します。

・筒の途中にある点の高さが、「中」水位の目安です。



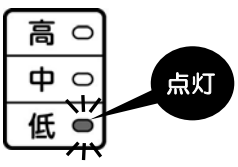
3. お湯はりスイッチを押します。

・タンクから浴槽へ湯が送られます。
・送湯中は水位設定ランプが点滅し、送湯中であることをお知らせします。

⚠ 警告　送湯中や入浴中の入浴者の状態に注意

・浴槽に湯が貯まると、湯温表示部は、タンク内湯温から浴槽内湯温の表示へ切り替わります。上部のランプで表示します。

浴槽内の水位が所定の位置になると、送湯が止まります。



・水位設定ランプの点滅が止まります。
・送湯後の水位の変更方法は、P.31 を参照ください。

送湯されない場合は、P.50「このようなときは」を参照ください。

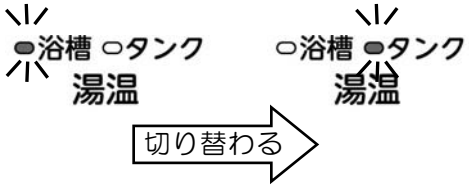
お湯抜き

入浴が終わったら、浴槽から湯を抜きます。湯はタンクへ戻します。

1. お湯抜きスイッチを押します。

・浴槽からタンクへ湯が送られます。

・浴槽内の湯が少なくなると、湯温表示部は、浴槽内湯温からタンク内湯温の表示へ切り替わります。上部のランプで表示します。



浴槽内の湯がなくなると、送湯が止まります。

参考

入浴中に差し湯をして浴槽内の湯量が増えますと、お湯抜き中に浴槽内に湯が残った状態でタンクが満水になってしまい、送湯が途中で停止してしまうことがあります。この場合、温度表示部に「E2」と表示され、残った湯は自動で排水されます。（側面の浴槽用排水レバーを開くと更に早く排水できます。）「E2」が温度表示に戻りましたら、再度お湯抜きを行い残った湯をタンクに送湯することができます。

お湯はり完了後の水位変更（P.31 参照）で増えた場合は、お湯抜き時に送湯が途中で停止することはありません。

送湯の停止

1. お湯はり、お湯抜きを途中で止めるときは、停止スイッチを押します。

参考

浴槽内の湯量が排水栓以下で停止を押したときに再度お湯はり、お湯抜きスイッチを押しても作動しないことがありますが、浴槽内の湯は徐々に排水されます。その際、排水完了前に扉を開けることが出来ますが、残った湯が飛び散ることがありますので注意してください。

入浴中に水位を変更する

入浴を開始したあとにお湯はり水位を変更したいときは、下記の操作を行ってください。

◆お湯はりの途中

1. 停止スイッチを押して、お湯はりを一時停止します。

・送湯が行われている最中は、水位を変更できません。

2. 水位設定スイッチを押し、設定を変更します。

3. もう一度お湯はりスイッチを押し、お湯はりを再開します。

◆お湯はり完了後

1. 水位設定スイッチを押し、「高」「中」のいずれかに設定を変更します。

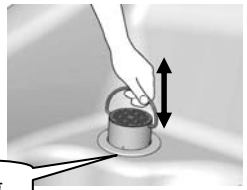
・水位を下げる変更はできません。

2. お湯はりスイッチを押します。

・設定した水位まで湯が出ます。

変更した水位にあわせて、オーバーフローの高さを上下させます。

・筒の途中にある点の高さが、「中」水位の目安です。



参考

差し湯を行って水位が上がると、お湯抜き時に湯が全てタンクに戻らないで送湯が停止する場合があります。この場合、自動で排水に切り替わりますが、排水が終わるまで出られないため、水位を上げたい場合は水位設定スイッチで変更を行うことをお勧めします。

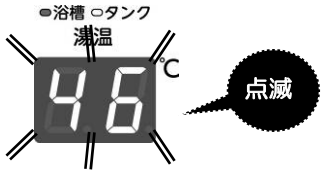
操作方法

浴槽湯温表示

浴槽内の湯温は、湯温表示部に表示されます。

差し湯などで 35℃以下または 46℃以上になると、数字が点滅してお知らせします。入浴者の様子に注意して、差し湯の湯温を調節してください。

・差し湯の温度調節については、P.33 を参照ください。

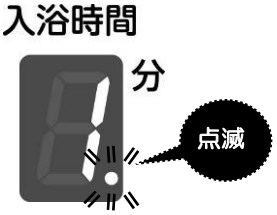


入浴時間表示

お湯はりスイッチを押して送湯が始まると、入浴時間の計測が始まります。（時間計右下のドット(・)が点滅し計測中であることを知らせます）

0～9 分までは 1 分毎に表示し、10 分以上は、9.の点滅になります。

お湯抜きスイッチを押して、湯が浴槽からタンクに戻ると計測が停止します。ドアが開くとリセットされ、表示が 0 に戻ります。



参考

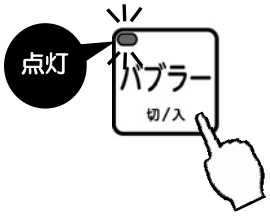
タンクに湯を戻して計測を停止させても、ドアを開けずに再度お湯はりスイッチを押すと、計測が継続されます。

バブラー

浴槽の底面から気泡が発生し、気泡浴として入浴できます。

1. バブラースイッチを押します。

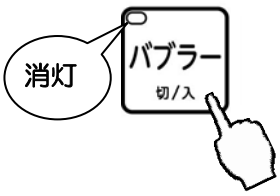
・浴槽底面の気泡発生管から気泡が出ます。
・ランプが点灯します。



2. 停止するときは、もう一度バブラースイッチを押します。

参考

・バブラーは浴槽内に湯がなくても操作可能です。配管内に残った湯を排出するためにご使用頂けますので、P.47 の清掃時の操作と合わせてご利用ください。
・浴槽内に湯が無い状態でバブラーを使用すると配管内に残った湯が飛び散るので、注意してください。

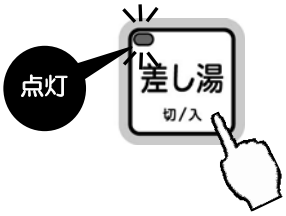


操作方法

差し湯

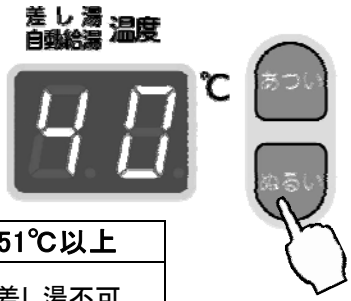
差し湯を行うことで、浴槽内の湯温の低下を防止したり、オーバーフローから垢や汚れを流し出すことができます。送湯後で浴槽内に湯があるときのみ作動します。

1. 差し湯スイッチを押します。



・ランプが点灯し、差し湯口から湯が出ます。

2. 差し湯 自動給湯 温度表示を見ながら、あつい ぬるい スイッチを押し、お好みの温度に設定します。

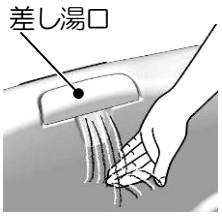


・設定できる温度範囲はｃ0(35℃以下)と 36～50℃です。
ｃ0 に設定した場合、水が出て、水温を表示します。
・差し湯ランプが点灯しているときのみ、操作できます。

35℃以下	36℃・・・・45℃	46℃・・・・50℃	51℃以上
差し湯可能 (設定は c0)	可能	(差し湯温度 点滅)	差し湯不可

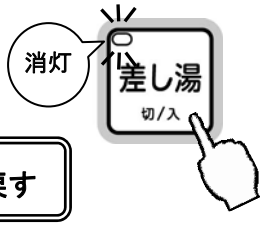
参考

・差し湯の温度設定は、自動給湯の温度設定とは独立しています。
・温度表示は、あつい、ぬるいスイッチを操作しているときは、設定温度を表示します。設定終了後、約２秒で実際の湯温の表示に自動で切り替わります。



⚠ 警告　差し湯をするときは、給湯温度表示と手で湯温を確認

3. 停止するときは、もう一度差し湯スイッチを押します。



⚠ 警告　高温で差し湯を使用した後は、必ず温度設定を適温に戻す

参考

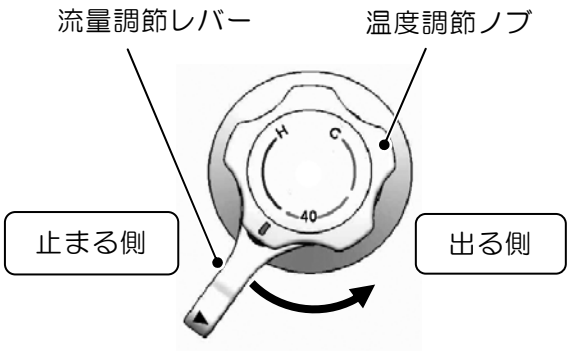
差し湯を行って水位が上がると、お湯抜き時に湯が全てタンクに戻らないで送湯が停止する場合があります。この場合、自動で排水に切り替わりますが、排水が終わるまで出られないため、水位を上げたい場合は水位設定スイッチで変更を行うことをお勧めします。（P.31「入浴中に水位を変更する」参照）

操作方法

シャワー

1. 流量調節レバーを、出る側へ回します。

・シャワーヘッドから湯が出始めます。

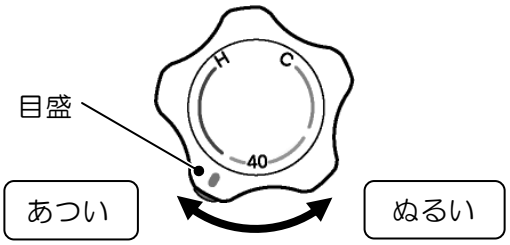


⚠ 注意　流量調節ノブはゆっくり回す

2. 温度調節ノブで、温度調節を行います。

・温度調節ノブをHの方に回すと温度が上がり、目盛「40」の付近（約 44℃）まで調節できます。

・温度調節ノブをCの方に回すと温度が下がります。

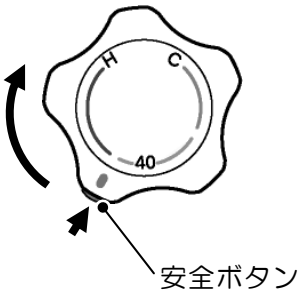


⚠ 警告　・シャワーを入浴者にかける前だけでなく使用中も絶えず手で温度を確認
・シャワーをかけたままにして入浴者から離れない

45℃以上の湯を出すには、安全ボタンを押しながら、温度調節ノブをHの方向に回します。

・温度調節ノブは誤って高温の湯を出さないように、安全ボタンが付いています。

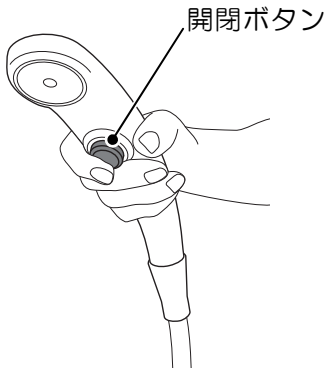
・やけどを防止するため、通常はノブの停止位置より温度の低い範囲でご使用ください。

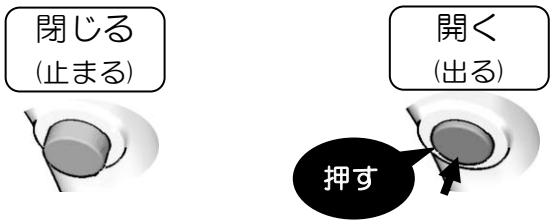


⚠ 警告　ハンドシャワーで高温の湯を使用した後は、温度調節ノブを適温に戻す

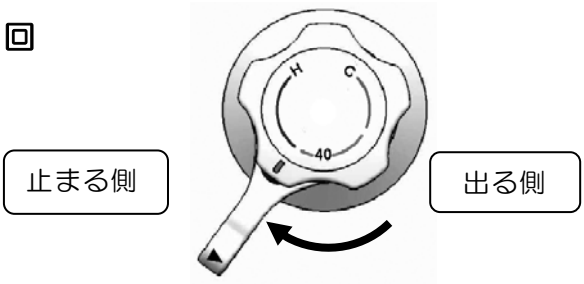
操作方法／シャワー

一時的にシャワーを止めるときは、開閉ボタンを押します。





3. 使用後は、流量調節レバーを止まる側に回します。



> ⚠ **注意　シャワーの使用後は、シャワーの開閉ボタンを「開く」の状態にしたまま湯量調節レバーでシャワーを止める**

操作方法

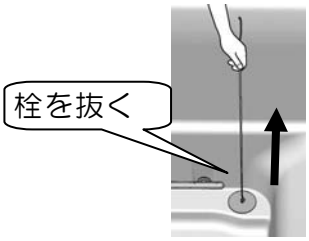
排水

湯を捨てる際は下記操作により排水してください。

・浴槽の湯をタンクへ送り、次の入浴に利用する「お湯抜き」操作については、P.30 を参照ください。

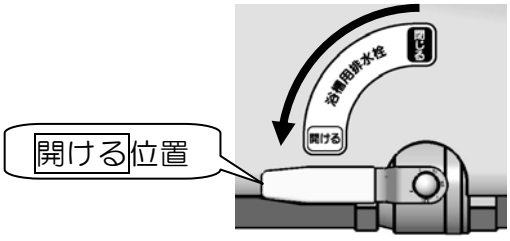
浴槽内の湯を排水する

1. 浴槽底面の排水栓を抜きます。



・浴槽内の湯が排水されます。

2. 浴槽側面の床付近にある浴槽用排水レバーを開ける位置にします。



・浴槽内と配管内の湯が排水されます。

・緊急時の「急速排水」についてはP.44 を参照ください。

タンク内の湯を排水する

1. タンク排水スイッチを約２秒間長押しします。

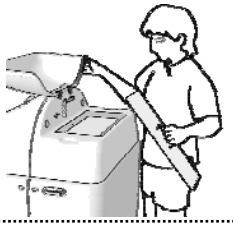
・排水ランプが点灯し、湯が排水されます。

・排水前に自動給湯を「切」にしてください。

参考

浴槽内に送湯中は、タンク排水はできません。

2. 排水の完了は、タンク蓋を開けて確認します。



3. 排水を止めるときは、もう一度排水スイッチを長押しします。

・排水ランプが消灯し、排水が停止します。

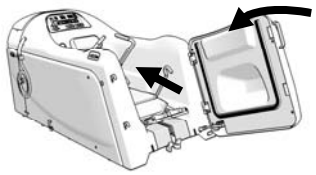
操作方法

塩素殺菌

浴槽殺菌（全工程　約 15 分）

浴槽内湯量に対して約 1.0ppm 分の量の薬液を貯湯タンクに吐出し、浴槽・タンク・入浴用車椅子の殺菌を行うものです。
毎日の入浴作業終了後に行うことをお奨めします。

1. 空の車椅子を、通常の入浴と同じように浴槽にセットしてドアを閉めます。

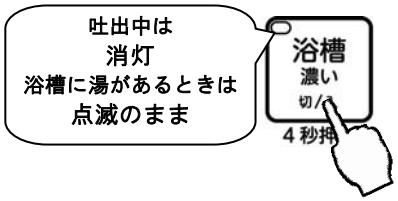


2. 浴槽濃いスイッチを約４秒間長押しします。

・薬液が吐出され、浴槽殺菌工程が開始します。
・薬液吐出中はランプが点灯、薬液吐出後は点滅します。

参考
所定の湯量がタンクにないと、浴槽殺菌は実施できません。湯量不足ランプが点灯していたら、自動給湯スイッチを押し、タンクに給湯してください。

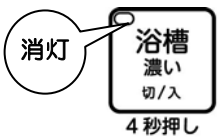
薬液の吐出中と浴槽に湯があるときは、もう一度浴槽濃いスイッチを押すと途中で停止します。



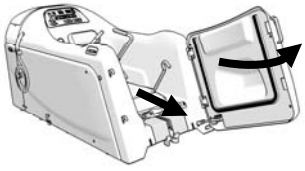
・停止後、再度浴槽濃いスイッチを長押しすると、浴槽殺菌の停止した時点の工程から始まります。

浴槽殺菌は…　「タンク内に薬液の吐出」→「浴槽への送湯」→「バブラーによる攪拌（２回）」→「タンクへの送湯」→「タンク内自動排水」→「ドアシールと底面シールの解除」の工程を自動で行います。

・殺菌が終了すると、ランプが消灯します。
・ただし「タンク内自動排水」は行われています。



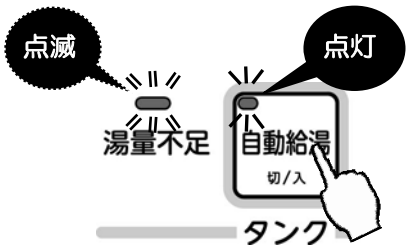
3. ドアを開け、車椅子を出します。



・排水完了後にブレーカーを切ってください。

操作方法

4. 再び入浴を開始するときは、排水完了後、ブレーカーを再び入れ、自動給湯スイッチを押します。



参考

・浴槽殺菌は、48℃以上の湯では実施することはできませんが、35℃以下の湯では実施することができます。

・浴槽殺菌を途中で終了するとき

◆工程が「薬液の吐出中」の場合

浴槽濃いスイッチを押した後、排水スイッチを押してタンク内の湯を排水してください。

◆工程が「浴槽に湯があるとき」の場合

浴槽濃いスイッチを押した後、排水栓と浴槽用排水レバーで浴槽内の湯を排水し、排水スイッチでタンク内の湯を排水してください。

◆工程が「浴槽への送湯」中または「タンクへの送湯」中の場合

浴槽操作部の停止スイッチを押すとその場で停止します。「浴槽に湯があるとき」の場合と同様に排水をするか、浴槽濃いスイッチを長押しして、停止した時点の工程から再開させて終了させてください。

途中で終了させた後は、電源を切り、ブレーカーを切ってください。

・浴槽殺菌工程中及び終了後は、入浴操作及び浴槽水殺菌は行えません。入浴操作及び浴槽水殺菌を行う場合は、浴槽内とタンク内の湯を全て排水して、ブレーカーを入れなおしてからタンクへ給湯し直してください。

ご注意

浴槽殺菌工程中は、タンクメンテナンスカバーおよびタンク蓋を開けないでください。

「公衆浴場における衛生等管理要領について」　（抜粋）

厚生省(現厚生労働省)通達　(生衛発第 1811 号、H12.12.15)

適用の範囲：公衆浴場及び浴場業

・浴槽の清掃は毎日、消毒は月一回以上行うこと。ろ過装置付きの場合は、ろ過部の消毒及び逆洗を週一回以上行うこと。

・浴槽水の消毒に用いる塩素系薬剤の濃度は、遊離残留塩素濃度を 1 日 2 時間以上 0.2～0.4 mg/L《ppm》に保つことが望ましい。

操作方法／塩素殺菌

浴槽水殺菌

適正湯量に対して約 0.6ppm 分の量の薬液を貯湯タンクに吐出し、浴槽水(湯)の殺菌を行うものです。昼休み時間(菌の増殖を抑える)や、失禁等による湯の入れ替え後に行ってください。

1. 浴槽水うすいスイッチを押します。

・タンクの湯量不足ランプが消灯している状態でスイッチを押します。
・約４分間薬液が吐出されます。(吐出中はランプが点滅)
・その後、約２時間のあいだはランプが点灯し、入浴するたびに少量の薬液が湯へ吐出されます。
・ランプ点滅中に入浴操作を行うとランプが消灯し、殺菌は停止します。

参考

所定の湯量がタンクにないと、浴槽殺菌は実施できません。湯量不足ランプが点灯していたら、自動給湯スイッチを押し、タンクに給湯してください。

途中で停止するときは

開始から４分以内(ランプ点滅中)は、もう一度浴槽水うすいスイッチを押します。

・浴槽水ランプが消灯します。

参考

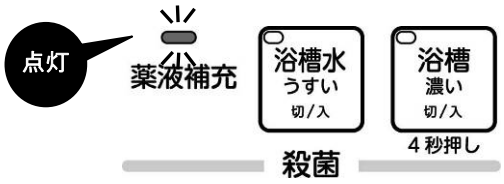
・浴槽水殺菌は、繰り返し操作による薬液濃度の上昇を防止するため、スイッチの操作後、**約２時間はランプが点灯し、自動運転します。**(薬液吐出後は、停止操作はできません)
・浴槽水殺菌中（２時間以内）でも、浴槽濃いスイッチを押すと浴槽水殺菌は終了し、浴槽殺菌に切り替わります。

・約２時間後、ランプが消灯し、浴槽水殺菌は終了します。
・２時間以内でも、開始から４分以降（ランプ点灯中）に、浴槽とタンクの湯を全て排水すると、浴槽水殺菌は終了し自動的に浴槽水ランプが消灯します。

操作方法

薬液補充

薬液が少なくなると、薬液補充ランプが点灯します。点灯した場合は、速やかに薬液を補充してください。



薬液を作る

次亜塩素酸ナトリウムを 4 倍に希釈し 1.5%溶液を作ります。

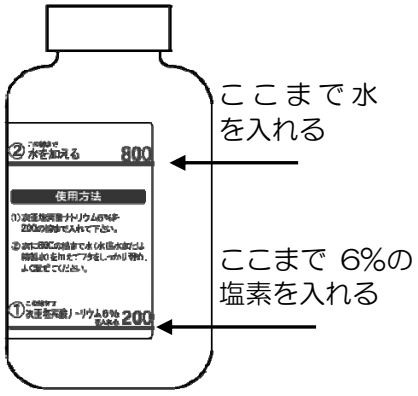
＜用意するもの＞

①付属の希釈ボトル
②市販の 6%次亜塩素酸ナトリウム 200mL
③水道水または精製水 600mL
④保護具（ゴム手袋）

> ⚠ **注意**　**・当社指定外の薬液を使用しない**
> **・薬液は使用期限内のものを使用する**

1. ゴム手袋を着用します。

2. 付属の希釈ボトルの蓋を開け、市販の次亜塩素酸ナトリウム 6%溶液を 200 の線まで入れます。



3. 水（水道水または精製水）を 800 の線まで加えます。

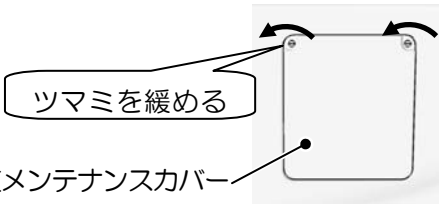
4. 蓋をしっかり閉めて、よく混ぜます。

操作方法／薬液補充

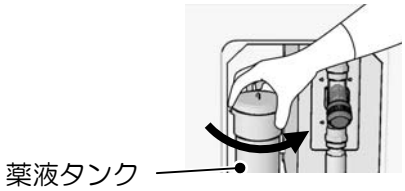
薬液を補充する

1. 電源スイッチを長押しし、電源を切ります。

2. ２か所のツマミを緩め、薬液メンテナンスカバーを外します。



3. 薬液タンクの蓋を反時計回りに回して開けます。



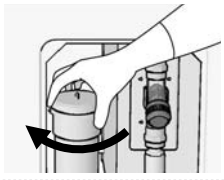
4. 希釈した薬液を、こぼさないように薬液タンクに入れます。

> ⚠ **注意　・補充薬液は濃度が 1.5%のものを使用する**
> **・希釈した薬液は 1 回毎に使い切り、作り置きはしない**

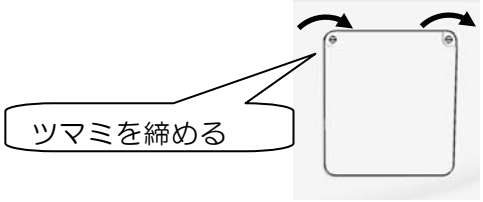
参考

薬液タンクは、薬液補充ランプが点灯後、希釈ボトル１本分（800mL）補充できます。

5. 薬液タンクの蓋を時計回りに回して閉めます。



6. カバーを戻し、２か所のツマミを締めます。



7. 希釈ボトルを水でよく洗浄します。

> ⚠ **注意　空になった容器は、よく洗って保管する**

操作方法／薬液補充

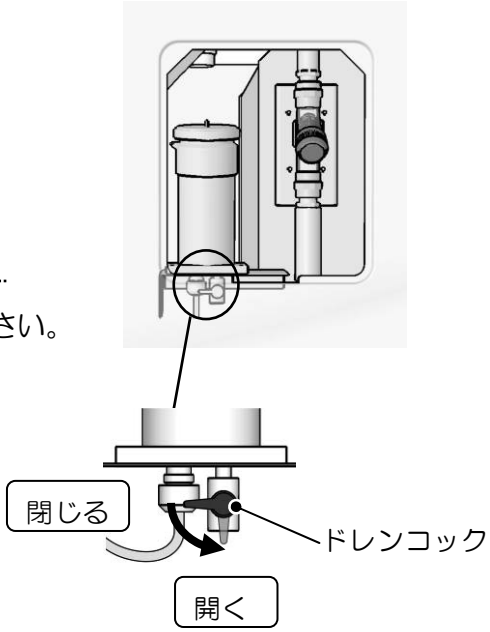
薬液タンク内の薬液を排出する

薬液タンク内の薬液は、補充してから 30 日を過ぎた場合、経時変化により殺菌効果が弱くなります。
その際は、下記操作にてタンク内の薬液を排出し、新しい薬液に入れ替えてください。

1. 薬液タンク下のドレンコックを下へ回します。

・薬液が排出されます。

薬液排出後は、忘れずにコックを左に回して閉じてください。
排出した薬液は、速やかに水でよく洗い流してください。



薬液取り扱いの注意

容器に書かれている取り扱いの注意をよく読んでお使いください。

⚠ 危険　次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品の近くに置いたり、一緒に用いない

⚠ 警告　誤って薬液を飲んだり、目に入った場合は、応急処置後、医師に相談する

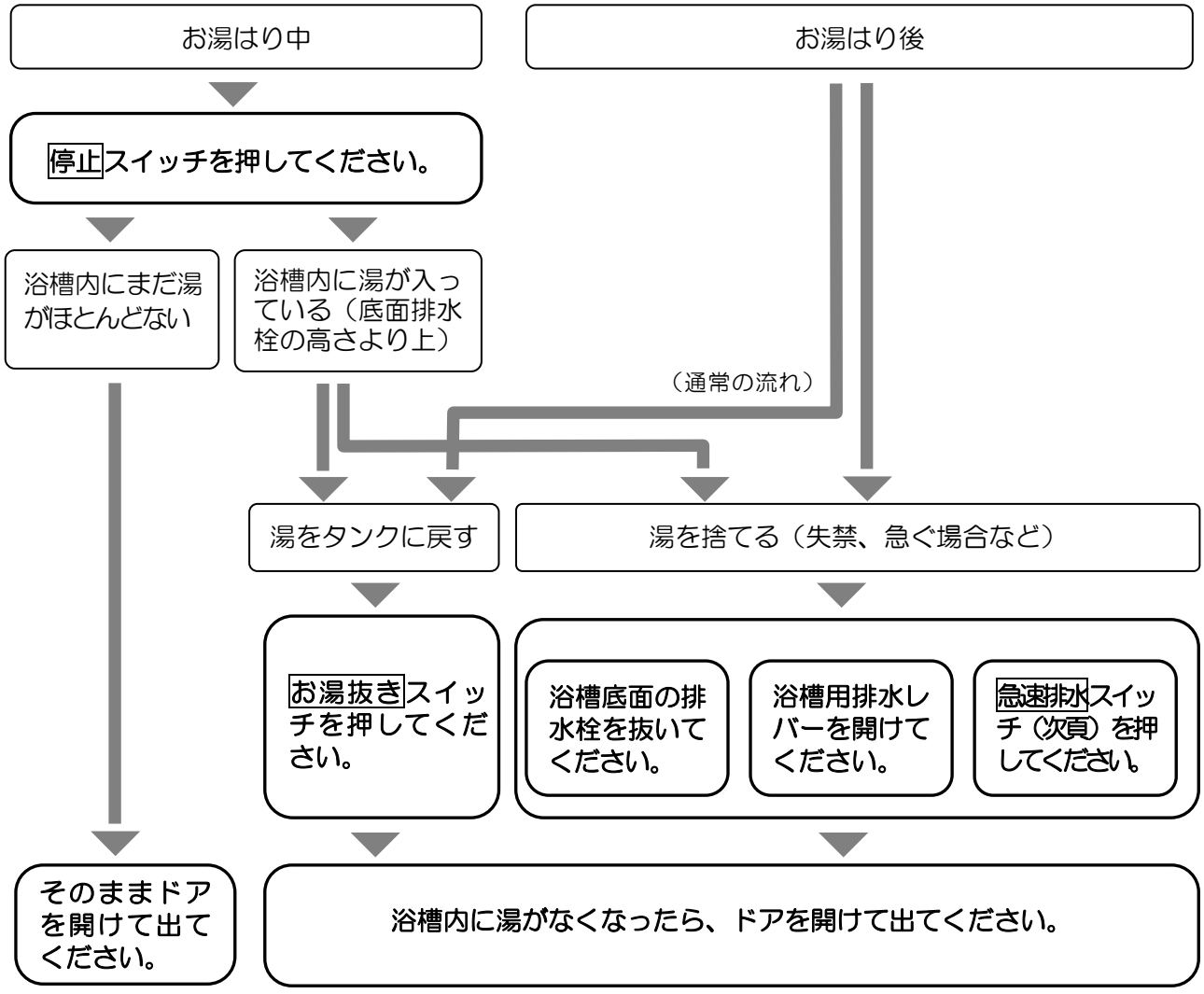
⚠ 注意　・薬液が誤って人体または衣服についた場合は、すぐにきれいな水で洗い流す
・十分に換気を行い、保護具（ゴム手袋）を着用する
・周囲に薬液がこぼれた場合は水でよく洗い流す

操作方法

非常時の操作

入浴を途中で止めるとき

入浴を途中で中止する場合、状況により次の対処を行ってください。



操作方法

急速排水する

急速排水は、入浴中の緊急の場合に浴槽の底を開いて、湯を非常に早く排出する機能です。

1. タンクメンテナンスカバーを開けて、
中にある急速排水スイッチを押します。

・浴槽内の底面シールが少し開き、湯が排出されます。

ご注意

浴槽内の湯を速く排水させるため、入浴者の気分が悪くなる場合があります。入浴者の状態に注意してください。

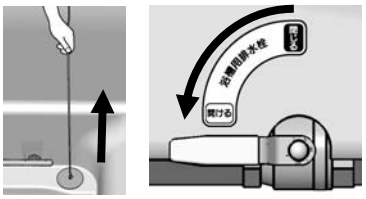
⚠ **注意**　**・失禁等で急速排水を使用する場合、排泄物を取り除いてから排水する**
・急速排水するときは、急激な湯の流出に注意

2. 浴槽内の湯が全て排水されたら、ドアを
開けることができます。

ドアを手動で開放する

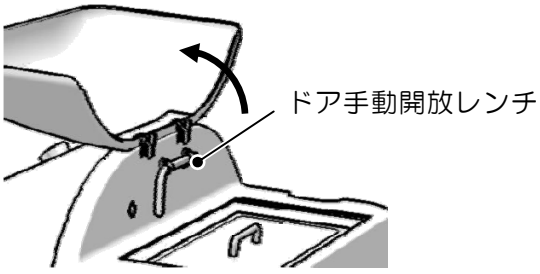
停電または故障により装置が動かなくなったときは、次の手順でドアを開放し、入浴者を浴槽から出してください。

1. 排水栓及び浴槽用排水レバーを開けて、浴槽の湯を完全に排水します。



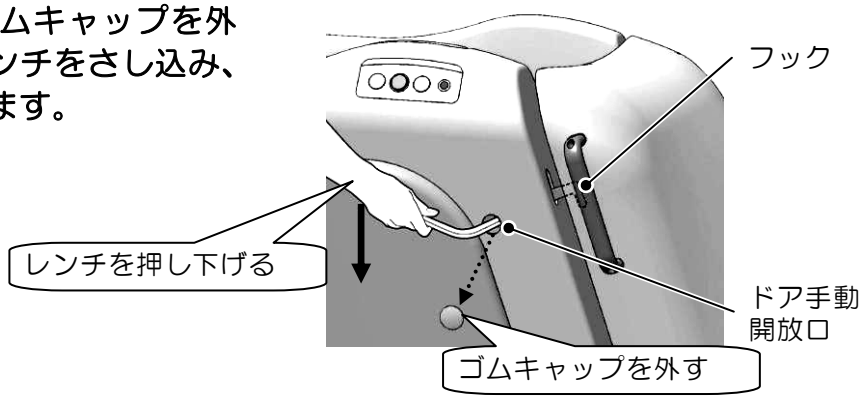
⚠注意　非常時のドアフックを解除する前に、必ず浴槽内の湯を完全に排水する

2. タンクメンテナンスカバーを開けて、ドア手動開放レンチを取り出します。



3. ドア手動開放口のゴムキャップを外し、内部の角穴にレンチをさし込み、下へ力強く押し下げます。

・フックが外れます。



4. ドアの把手を持って手前に引き、ゆっくり開けます。

入浴者を抱えて外へ出します。

ご注意

停電または故障の場合、底面シールが開かないため車椅子を外へ引き出すことはできません。

操作方法

入浴終了後

・浴槽内を洗浄してください。（P.47「清掃」参照）
・必要に応じ、浴槽及び車椅子を殺菌してください。（P.37「浴槽殺菌」参照）

1. ドアを閉めます。（P.27「車椅子を入れずにドアを閉じる」参照）

・浴槽の中へ人が入ったりシールを傷付けたりすることを防止します。

2. 貯湯タンク内の湯をすべて排水します。

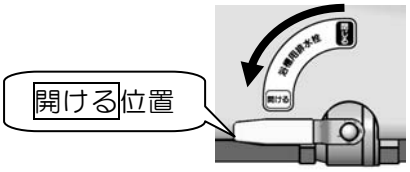
・タンクの排水時間は約 12 分です。タンク蓋をあけてタンク内が空になったことを確認してください。

3. 底面シール及びドアシールが開いていることを確認します。

・車椅子を入れた状態で電源を切った場合は、自動でシールが開きます。

4. 電源スイッチを押して電源を切ります。

5. 浴槽用排水レバーを開ける位置に回して、配管内の湯を排水します。



6. 配電盤内にある専用安全ブレーカーを切ります。

7. 浴室の窓を開けるなどして、十分に換気をします。

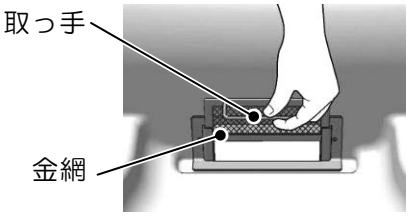
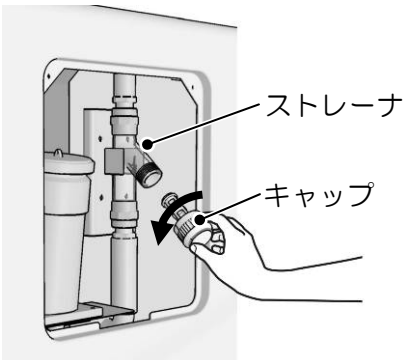
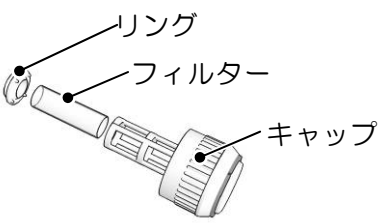
・浴室の湿度を下げて、湿気による錆やカビなどの発生を抑えます。

⚠ 注意
- **使用後は、ドアシール及び底面シールを作動させない**
- **使用後は、タンク内の湯を排水する**
- **使用後は、必ず自動給湯ランプの消灯を確認し、電源を切る**
- **電源を切るときは、電源スイッチ、配電盤内にある専用の安全ブレーカーの順に切る**
- **使用後は、換気を行い室内の湿度を下げる**

日常のお手入れ

清　掃

1 日の入浴作業終了後、下記の方法で清掃を行ってください。

場所	清掃方法
浴槽内	①浴槽用排水レバーを開け、排水栓を抜き、排水してください。 ②浴槽用の中性洗剤とスポンジ等の柔らかいもの使用して洗浄し、よく水で洗い流してください。 ③気泡発生管内に残った湯を、バブラー機能を使用して排出してください。 ※ホースやシャワー等で洗浄するのは、浴槽内側だけにしてください。外側、特に操作部には水をかけないでください。 ※浴室床面を洗う際には水がはねてかからないように注意してください。 ※本製品は、ＦＲＰ製のため、たわし等で擦ると傷がつきます。
浴槽操作部 ドア操作部	布で軽く拭く程度にしてください。
ステンレス部	ステンレス部は水滴をそのままにしておくと水垢が残り汚くなります。乾いた布で水滴を拭いてください。
貯湯タンク	浴槽用の中性洗剤と柄付きスポンジ等の柔らかいものを使用して洗浄し、よく水で洗い流してください。
送湯口の金網	送湯口についている金網の取っ手を持ち上げて外し、引っ掛かった毛髪やごみ等を取り除いてください。 清掃後は、取り外した金網は必ず送湯口に差し込んでください。 
ストレーナ	①貯湯タンク内の湯を全て排水し空にしてください。（タンクに湯が入っている状態でストレーナを外すと、湯が溢れ出ます。） ②浴槽の電源を切ってください。 ③薬液メンテナンスカバーを開けてください。 ④ストレーナのキャップを左に回し、抜いてください。（少量の湯がこぼれます。） ⑤キャップからリング、フィルターを外し、汚れをブラシ等でよく洗浄してください。 ⑥洗浄後はキャップを元に戻してストレーナに挿し、時計回りにねじ込んで最後までしっかり閉めてください。 （リングの紛失・破損にご注意ください。）  

⚠注意　操作スイッチには水をかけない

日常のお手入れ

メンテナンス

グリスアップ

底面シール（上面・側面・先端）及びドアシール表面（特に中央突起部）と水位調節式オーバーフローには、週に 1 度、シリコングリス（信越シリコン G501：付属品）を塗布してください。塗布する際には、以下の点に気をつけてください。

●シリコングリスを塗布する際には、必ず付属のハケを使用してください。硬い物で塗布すると、シールを傷付けてしまうことがあります。

●ごみ等が付着している場合には、布等で拭き取ってから塗布してください。

●底面シールの上面及び先端に塗布するとき

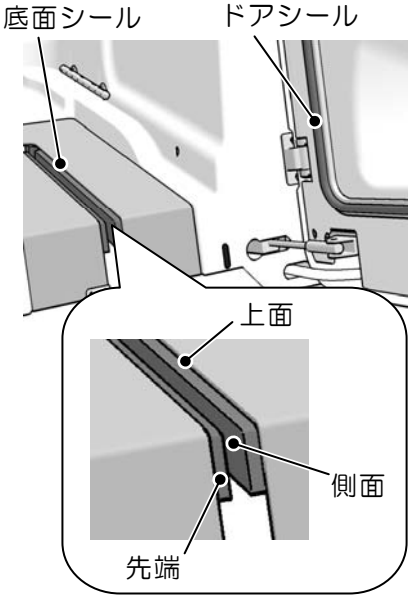
浴槽内に車椅子を入れ、底面シールが車椅子の支柱を挟んで固定した状態で、薄く塗布してください。シールは自動で動くため、指やハケを挟まないよう注意してください。

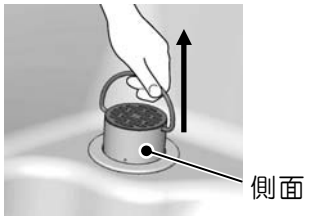
●底面シールの側面に塗布するとき

車椅子を浴槽の外に出し、底面シールが完全に開いた状態で、薄く塗布してください。

●水位調節式オーバーフローの側面に塗布するとき

最高位まで引き出して、側面全体に薄く塗布してください。





消耗品の補充に関しては、P.55 を参照ください。

⚠ 注意　・当社指定のシリコングリスを使用する
・シール部に挟まった毛髪やごみは取り除く

作動油

本浴槽は油圧駆動方式を採用しています。オイルタンク内にごみや水分が混入すると故障の原因となりますので、2 年に一度作動油の交換が必要です。
（弊社サービスマンにご用命ください）

このようなときは

まずは次の内容を確認いただき、なお異常があるときは
最寄りの営業所までご連絡ください。

	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
給湯関係	自動給湯スイッチを押しても、給湯できない	●電源は入っていますか？ →ブレーカーを ON にしてください。 →給湯操作部の電源スイッチを長押ししてください。	P.18
		●給湯温度は適正ですか？ （温度表示が点滅） →温度設定を 47℃（36℃）付近にすると、給湯水圧の変動により湯温が上がり(下がり)過ぎることがあります。温度を再設定してください。	P.20
		●給湯水配管の元バルブが閉じていませんか？ →施設側の元バルブを開けてください。	
	自動給湯が途中で止まった	●給湯温度は適正ですか？ （温度表示が点滅） →温度設定を 47℃（36℃）付近にすると、給湯水圧の変動により湯温が上がり(下がり)過ぎることがあります。温度を再設定してください。	P.20
		●施設測の給湯器は正常ですか？ →範囲外の湯温が流れ続けた場合、自動停止します。給湯器の作動を確認してください。	
	自動給湯が停止しない	●停電していませんか？ →復旧後に自動給湯が自動で停止します。停電中は給湯水配管の元バルブを閉めてください。復旧後は、必ず元バルブを開けてください。	
		●自動給湯開閉弁、または水位センサーのトラブル →電源スイッチを切ってください。給湯が停止しない場合は施設側の給湯水配管の元バルブを閉めてください。 →最寄りの営業所にご連絡ください。	
	差し湯スイッチを押しても、給湯しない	●浴槽に湯はありますか？ →お湯はりが完了後にスイッチを押してください。	
		●給湯温度は適正ですか？ →温度設定を 50℃付近にすると、給湯水圧の変動により湯温が上がり過ぎることがあります。温度を再設定してください。	

	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
給湯関係	給湯水量、または温度が安定しない	●<u>他の設備で大量に湯を使用していませんか？</u> →使用する時間をずらす等、使用時間を調整してください。 →給湯器の能力アップをご検討ください。 →流量が安定していない場合自動給湯ランプが点滅します。	
お湯はり・お湯抜き	お湯はりスイッチを押しても送湯されない	●<u>タンク湯量は十分ですか？</u> →湯量が不足していると送湯されません。湯量不足ランプが消えるまで貯湯してください。	P.21
		●<u>タンク湯温は適正ですか？</u> （温度表示が点滅） →タンクの湯温が 35℃以下または 46℃以上になっていると、お湯はりが開始されません。範囲内（36℃～45℃）に調節してください。	P.23
		●<u>ドアは完全に閉じていますか？</u> →閉じる操作をして、ドア操作部の半ドアランプを消灯させてください。	P.25 P.28
	お湯はりが途中で停止してしまった	●<u>タンク湯温は適正ですか？</u> （温度表示が点滅） →タンク内が 35℃以下になると、送湯が停止します。タンクにお湯を戻し、タンク内湯温を調節してから再度入浴操作を行ってください。	P.23
	お湯ぬきしても、浴槽内に湯が残る	●<u>タンク内が満水になったためです。差し湯などで浴槽湯量が途中で増えた場合に起こります。</u> →残った湯の排水は自動で行われます。側面の浴槽用排水レバーを開けば更に早く排水できます。	P.30 P.36
	お湯抜き後、ドアがあかない	●<u>浴槽内に湯が残っていませんか？</u> →残った湯の排水は自動で行われます。側面の浴槽用排水レバーを開けば更に早く排水できます。	P.30 P.36

このようなときは

	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
排水関係	タンク排水スイッチを押しても排水されない	●お湯はり中ではありませんか？ →お湯はり中にはタンクの排水はできません。お湯はりが停止してからタンク排水スイッチを押してください。	P.36
	お湯はり、お湯抜き、浴槽からの排水に時間がかかる	●送湯口にガーゼやタオル等が詰まっていませんか？ →送湯口に詰まっているものを取り除いてください。	P.47
バブラー	バブラーが作動しない	●浴槽殺菌中ではありませんか？ →浴槽殺菌中は自動でバブラーが作動しますので、操作できません。	
塩素殺菌	薬液補充ランプが消えない	●薬液が補充されていますか？ →薬液タンクのドレンコックは閉じてください。	P.40 P.42
その他	シャワーヘッドから水が漏れる	●開閉ボタンの操作のみでシャワーを止めていませんか？ →開閉ボタンを「開く」状態にして、湯量調節ノブでシャワーを止めてください。 （開閉ボタンの操作のみで長時間止水させると、水漏れの原因となります。）	P.35
	シリコングリスを使い切った	→当社指定品のご購入をお願いします。	P.55
	殺菌用の薬液（原液）を使い切った	→当社推奨品のご購入をお願いします。	P.55

このようなときは

給湯操作部の表示	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
	給湯温度表示が「0」を表示している	●水に近い温度で差し湯する設定になっている →故障ではありません。	P.33
	給湯温度表示が「00」を点滅表示している	●電気制御ミキシングのセットアップ中 →セットアップが終了するまで、お待ちください。正常な場合は、約 35 秒で給湯温度に切り替わります。	
	温度表示が「E0」または「E1」を点滅表示している	●温度センサーの故障 →最寄りの営業所にご連絡ください。	
	温度表示が「E2」を点滅表示している	●タンク水位センサー、自動給湯開閉弁、タンク自動排水開閉弁　いずれかの故障 →湯が出続けている時は施設側の元バルブを閉め、最寄りの営業所にご連絡ください。	
	温度表示が「E3」を点滅表示している	●タンク水位センサーの故障 →最寄りの営業所にご連絡ください。	
	温度表示が「E4」を点滅表示している	●浴槽水位センサーの故障 →最寄りの営業所にご連絡ください。	
	温度表示が「E8」を点滅表示している	●ミキシングのセットアップが所定の時間内に完了しなかった。（約 35 秒以内） →浴槽操作部の電源スイッチを切り、再度電源を入れてください。尚、連続して「E8」を表示する場合は、最寄りの営業所にご連絡ください。	

機器について

保守・点検について

・本製品を使用する際は、機器の管理者の方が下記の点検項目に基づき、必ず P.15 の始業点検（日常点検）及び定期点検（月 1 回程度）を実施してください。
・長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。
・**点検時に異常が発見された場合は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所までご連絡ください。**
・清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします。

● 定期点検項目　（月に 1 回程度、以下の定期点検を行ってください。）

区分	点検内容	点検方法
設備	排水溝内のごみの有無と排水の流れの状態	目視（ごみがあれば除去し清掃する）
外観	タンクや水配管からの漏れ	浴槽下を覗いて、床に漏れた跡がないことを確認
	薬液配管からの漏れ	
	シャワーホースとシャワーヘッドの破損	目視
（浴槽動作時）機能	給湯温度の表示	自動給湯スイッチを押して給湯を開始する。市販の棒状温度計でタンク内の上部から吐出している湯の温度を測定し、表示と比較する（表示差±1℃以内が正常）
	湯温の表示	タンクに湯を貯め、じゅうぶんに攪拌した後、棒状温度計で湯温を測定し、表示と比較する（表示差±1℃以内が正常）

● 定期保守点検契約のお勧め

製品を長期間正常な状態で安全に使用できるように保証期間後の「保守点検契約」の締結をお勧めします。詳しくは別添の「保守点検契約のお勧め」をご覧になるか、最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。

機器について

保証とアフターサービス

保証書と保証期間

- 保証書（別添）は再発行致しませんので紛失されないよう大切に保管してください。
  保証書がないと保証期間中でも有償修理とさせていただく場合があります。
- 保証期間は 1 年です。但し本体フレームおよび FRP 部品は 5 年間です。保証の規定につきましては保証書をご覧ください。

修理をご依頼いただく場合

- 修理をご依頼いただく場合は、下記のことをお知らせください。
  機種名　　：　*LA-510*
  お買い上げ：　　年　月　日
  故障状況(できるだけ詳細に)
  住所，氏名，電話番号
- メーカーより指示のあるとき以外は、決してカバーを開けたり、機器を分解したりしないでください。

耐用期間

10 年：保守点検などの当社推奨環境で使用された場合

消耗品（使用により、量などが減少していくもの）

シリコングリス	（当社指定品：信越シリコンG501）
次亜塩素酸ナトリウム 6%溶液	（当社推奨品：ピューラックス 濃度 6%）

補充は、お客様により実施願います。

損耗品（使用により、磨耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

・正常な使用において、交換の目安が**約１年**のもの。(使用状況により交換の目安は変わります)

ストレーナフィルター

・正常な使用において、交換の目安が**約２年**のもの。

シャワーヘッド
作動油
薬液ポンプの継手配管
薬液チューブ

・正常な使用において、交換の目安が**約３年**のもの。

シャワーホース
給湯給水ホース
排水ホース
油圧ホース

損耗品の交換時期が来ましたら弊社営業所までご用命ください。点検して必要により有償交換いたします。

保守用性能部品の保有期間

保守用性能部品の保有期間は、販売中止後 10 年です。ただし、性能部品が製造中止などにより入手不可能になった場合は、保有期間が短くなる場合もあります。

機器について

仕 様

型　　式		LA-510 R､L
外形寸法		2549(Ｌ)×1044(W)×1200(Ｈ)㎜
浴槽内寸法		1310(上)～1220(下)×700(W)×635(Ｄ)㎜
実使用湯量		約 320 リットル（身長 160cm、体重 57kg の場合）
貯湯タンク湯量		約 400 リットル
質　　量		約 370 kg
最大搭乗質量(車椅子上入浴者)		100kg
電　　源		三相 200Ｖ　50Hz/60Hz　30Ａ
電　　力		900W（50Hz）/1220W（60Hz）
材質	フレーム	スチール・粉体塗装仕上
	貯湯タンク	ステンレス
	浴槽・ドア・カバー	FRP
ドア・底面シール駆動方式		電動油圧式
機能	自動給湯システム	適正水位自動停止、高温時自動停止
	バブラー	エアポンプ：単相200V80W
	殺菌装置	殺菌方法：次亜塩素酸ナトリウム ポンプ：DC24V
安全機構		高･低温時自動給湯/送湯停止機構､漏電ブレーカー、ドア自動一時停止機構、急速排水機能
その他		入浴時間デジタル表示、給湯温度デジタル表示、タンク/浴槽湯温デジタル表示
付属品		•取扱注意銘板 •シリコングリス •ハケ •次亜塩素酸ナトリウム 6%溶液・600mL •希釈ボトル

注．都合により予告なく仕様の変更を行う場合があります。